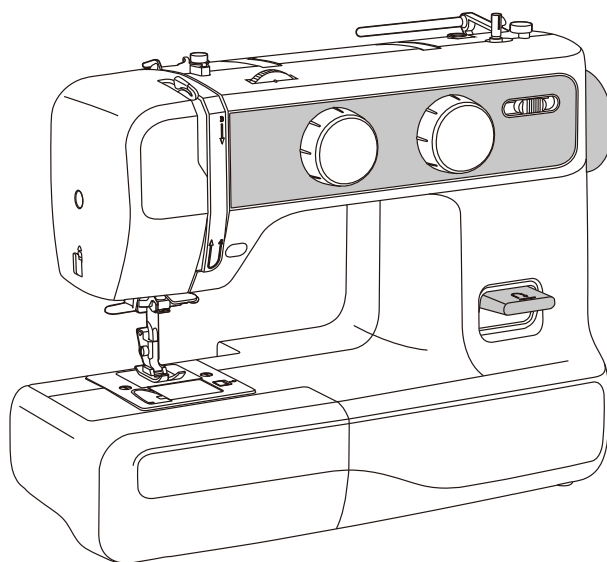


電子ミシン KJM-2001

取扱説明書（保証書付）

ご使用前に必ずお読みください。



このたびは、ジャガー電子ミシンをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
なお、この取扱説明書には保証書が付いています。お読みになった後は、大切に保管してください。
●ご使用前に「安全上のご注意」を必ずお読みください。

安全上のご注意

※ ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

※ ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。



警告

誤った取り扱いをしたときに、死亡または重傷を負う可能性があるもの



注意

誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負ったり、物的損害の可能性のあるもの

絵表示の例



⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

※ お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる場所に必ず保管してください。

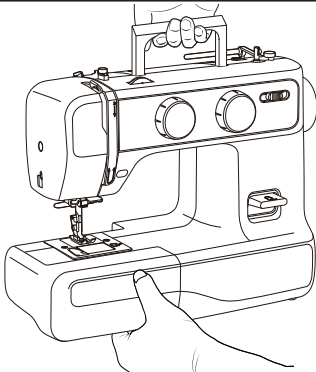
安全上のご注意

警告

 AC 100 V 以外の電圧や地域では使用しない。 (日本国内専用) 火災・感電の原因となります。	 ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。 感電やけがの原因となります。
 次のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから引き抜く。 電源プラグを差し込んだままにしておくと、思わぬ火災や感電の原因となることがあります。 ・ ミシンのそばを離れるとき ・ ミシンを使用しないとき ・ ミシンのお手入れをするとき ・ ミシンを移動させるとき ・ ミシンを使用中に停電したとき	 ミシン、電源コード、電源プラグなどを水につけたりぬらしたりしない。ぬれた布やぞうきんでミシンを拭かない。スプレー状のクリーナーなどをミシンに直接噴霧しない。浴室や加湿器のそばなど水がかかるような場所や湿気の多い場所での使用や保管はしない。 火災・感電の原因となります。
 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く。 感電やショートして発火することがあります。	 電源コードを傷付けたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったりしない。また、重い物を載せたり、はさみ込んだり、高温部に近づけたりしない。 電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
 ミシンの内部に金属類や燃えやすい物などの異物や水分を差し込んだり、落とし込んだりしない。 火災・感電の原因となります。	 改造はしない。修理技術者以外の人、分解したり修理をしない。 火災・感電・けがの原因となります。 修理はお買い上げの販売店または小泉成器株式会社「お客様相談窓口」にご相談ください。
 ミシンを極端に傾けたり、前後左右に激しく動かさない。 感電や故障の原因となります。	 ミシンの上に乗らない。 倒れたりこわれたりしてけがの原因となります。
 ミシンをぐらついた台の上や傾いた場所などの不安定な場所に置かない。また、毛布やクッションなどのやわらかい物の上にも置かない。 落ちたり倒れたりして、けがや火災の原因となります。	 電源プラグは清潔にする。刃および刃の取付面にほこりが付着している場合は拭き取る。 ショート・火災の原因となります。
 ミシンの通風孔をふさがない。 内部に熱がこもり、火災の原因となります。	 ミシンを操作中にネクタイ・ネックレス・髪などを針周辺に引き込まれないようにする。 万一引き込まれてしまった場合は、直ちに電源を切って取り除いてください。
 雷が鳴り出したら、電源プラグには触れない。 感電の原因となります。	 子供の手の届く場所で使用したり放置しない。 けが・感電の恐れがあります。
 安全に責任を負う人の監視または指示がない限り、補助を必要とする人や子供だけで使用させない。 けが・感電の恐れがあります。	 電源プラグは根元まで確実に差し込む。 感電・発火・発煙の恐れがあります。
 梱包材を子供の手の届く場所に置かない。 口や鼻をふさいだり、口に入れるなどして窒息する恐れがあります。	

安全上のご注意

⚠ 注意

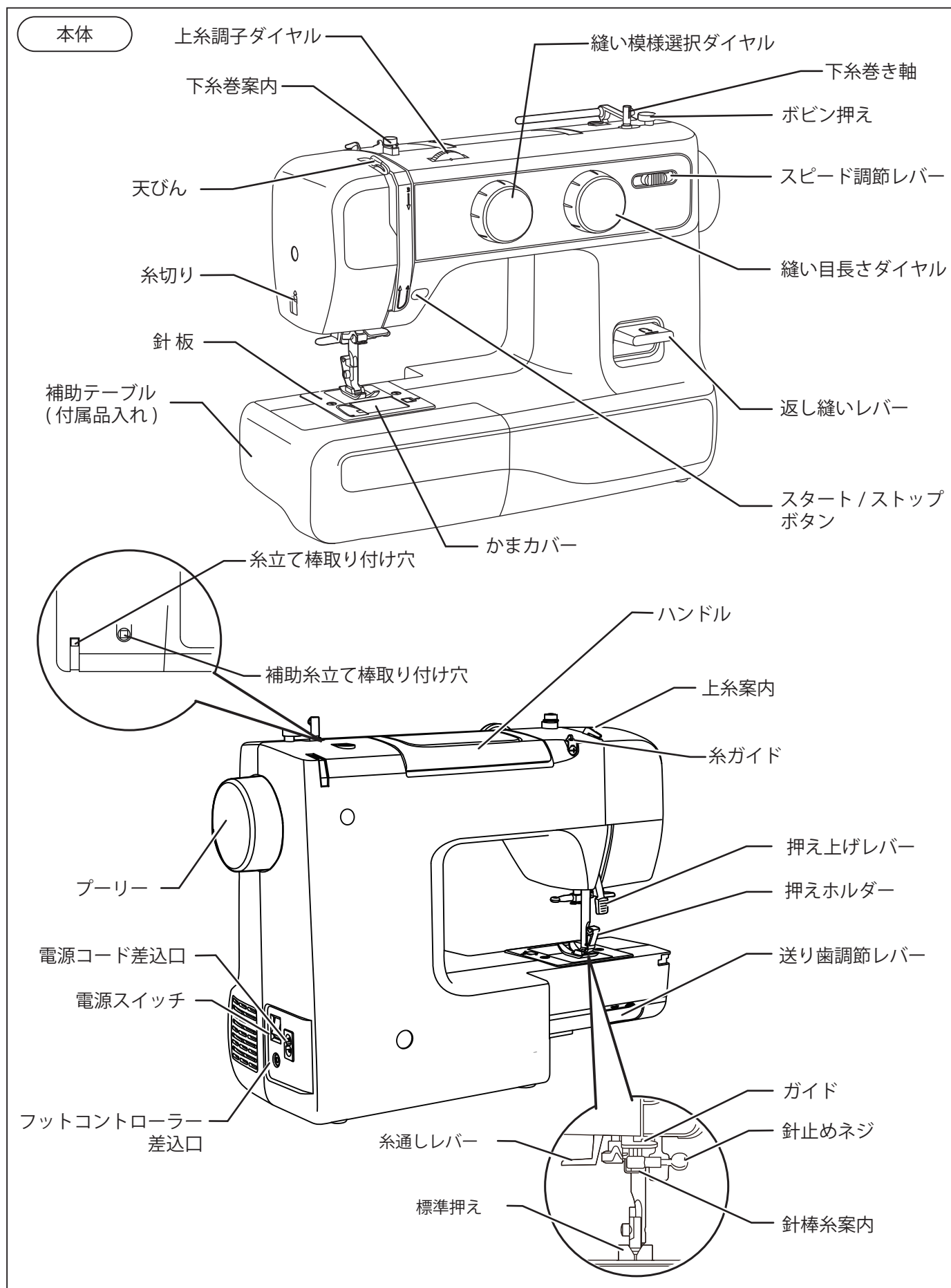
次のようなときは電源スイッチを「OFF」にする。 - 針を交換するとき - 上糸、下糸をセットするとき - 送り歯とかまの掃除をするとき	ミシンに以下の異常があるときはすみやかに使用を停止し、お買い上げの販売店または小泉成器株式会社「お客様相談窓口」にご相談ください。 - 正常に作動しないとき - 水にぬれたとき - 落下などにより破損したとき - 電源コード、プラグ類が破損、劣化したり、異常に熱くなったとき - 異常な音やにおいがするとき
ミシンを動かすときは、かまカバーを閉じる。	
針および針止めネジの下に指をいれない。 けがをする恐れがあります。	直射日光の当たる場所や、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高い場所では使用しない。 ミシンの使用温度は5～40℃です。ミシン内部の温度が上がったり、本体や電源コードが損傷し火災・感電の原因となります。
ミシンの使用中に、電子レンジや掃除機などの高容量の電気製品は使用しない。 ミシンの動作が不正確になる場合があります。	
業務用として使用しない。また、不特定多数の人が使用する場所に置かない。 連続過負荷による故障の恐れがあります。	
ミシンを移動するときは、 図の様に両手で持つ。	

もくじ

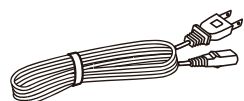
安全上のご注意	1 ~ 3
もくじ	4
各部のなまえ	5 ~ 6
付属品	6
ご使用になる前に	7 ~ 19
電源のつながりかた	7
別売部品のフットコントローラーを使用する場合	7
スタート / ストップボタン	8
スピード調節レバー	8
糸コマのセット	9
押え上げ	9
送り歯調節レバー	9
下糸の巻きかた	10
ボビンの取りはずしかた	11
ボビンと下糸のセットのしかた	12
上糸のかけかた	13
自動糸通し器の使いかた	14
針と糸と布の使いかた	15
針の取りかえかた	15
針が曲がっていないかチェックする	16
押えの取りかえかた	16
押えホルダーの取りはずしかたと取り付けかた	16
シームガイドの取り付けかた	17
補助糸立て棒の使いかた	17
下糸の引き上げかた	17
上糸調子のと리카た	18
縫い模様の選択	19
送りの長さ・ふり幅の調整方法	19

正しい使い方	20 ~ 27
返し縫い（縫い始め／縫い終わり）	20
縫い方向のかえかた	20
縫いにくい布地の縫いかた	20
直線縫い	21
ファスナー付け	22
ジグザグ縫い	22
点線ジグザグ縫い	23
裁ち目かがり	23
かくし縫い	24
飾り縫い	25
ボタンホール（ボタン穴かがり）	26
ボタン付け	27
お手入れのしかた	28 ~ 29
送り歯とかまの掃除	28 ~ 29
保管のしかた	29
故障かな？と思ったら	30 ~ 33
仕様	36
別売部品について	36
アフターサービスについて	37
お客様の個人情報のお取り扱いについて	37
保証・無料修理規定	38
お客様相談窓口	39

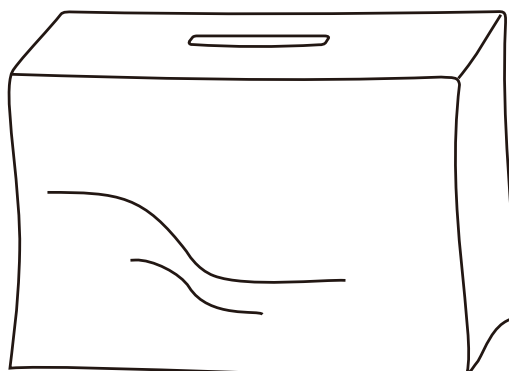
各部のなまえ



各部のなまえ



電源コード



ミシンカバー

付属品

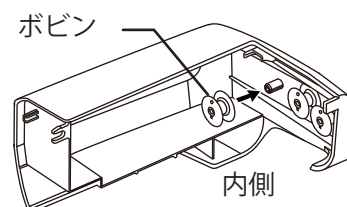
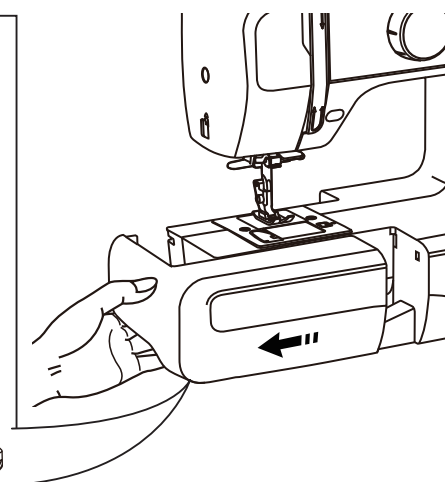
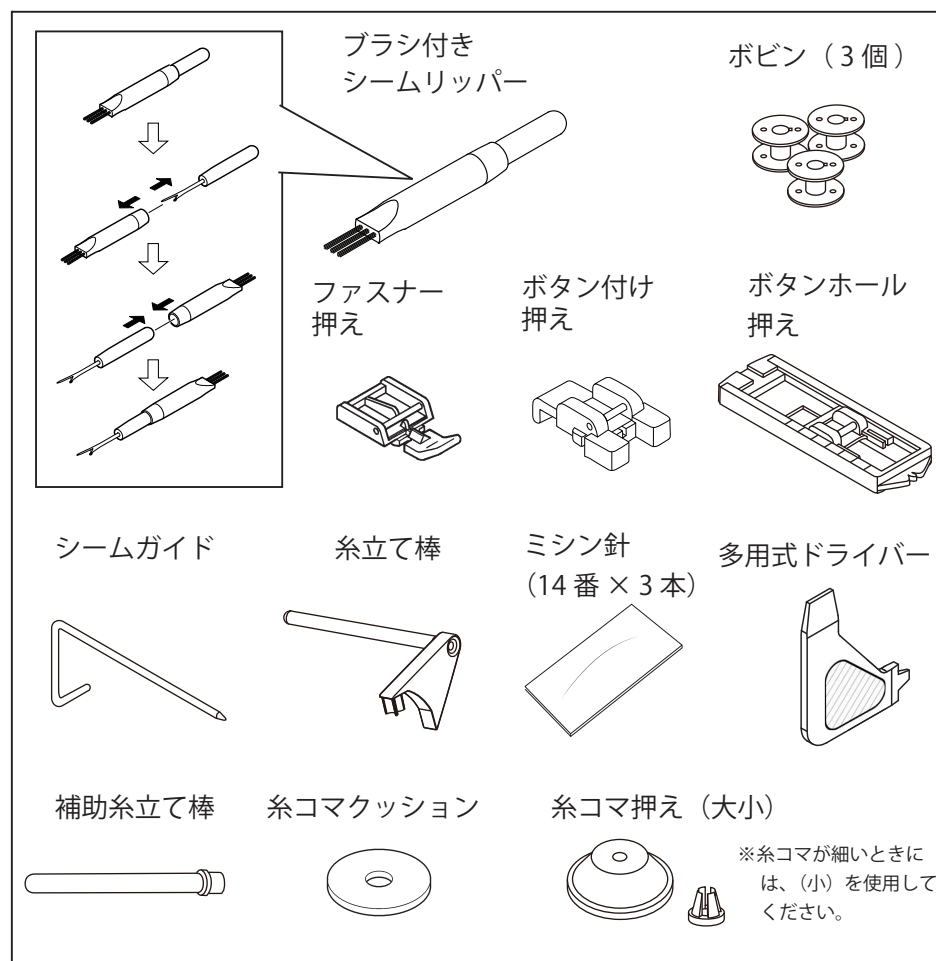
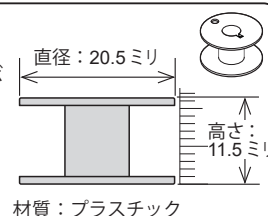
- 補助テーブルは左を持って矢印方向に引くと、本体より取りはずせます。
- 補助テーブル（付属品入れ）の中に付属品が入っています。



注意

使用するボビンについて

右記の寸法のプラスチック製ボビンを使用する。
金属製のボビンを使用される場合は糸調子が異なる場合があります。



補助テーブルの内側にボビン3つを直接収納することができます。

※ 付属品は消耗品のため、保証対象外となります。

ご使用になる前に

⚠ 注意

最初にミシンを使用するときは、押えの下に布切れを置いて、糸を使用しないでミシンを操作し、十分に油気を取り除いてください。
ほこりや油などで縫う布を汚さないように、使用前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対使用しないでください。
試し縫いをして、布が汚れないことを確認してから使用してください。

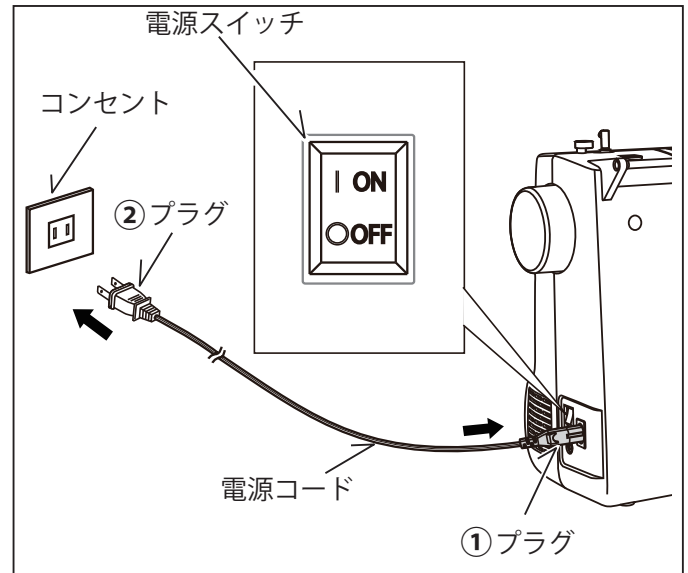
電源のつなぎかた

- 本体の電源スイッチを「OFF」にしてください。

電源コードのプラグ①をミシンに、プラグ②をコンセント差し込みます。

- 本体の電源スイッチを「ON」にして電源をいれます。
(同時に LED ランプが点灯します。)

- ミシンを使い終わったら本体の電源スイッチを「OFF」にして電源を切ります。
(同時に LED ランプが消えます。)



別売部品のフットコントローラーを使用する場合

- 本体の電源スイッチを「OFF」にしてください。

- 電源コードのプラグを①、②の順に差し込みます。

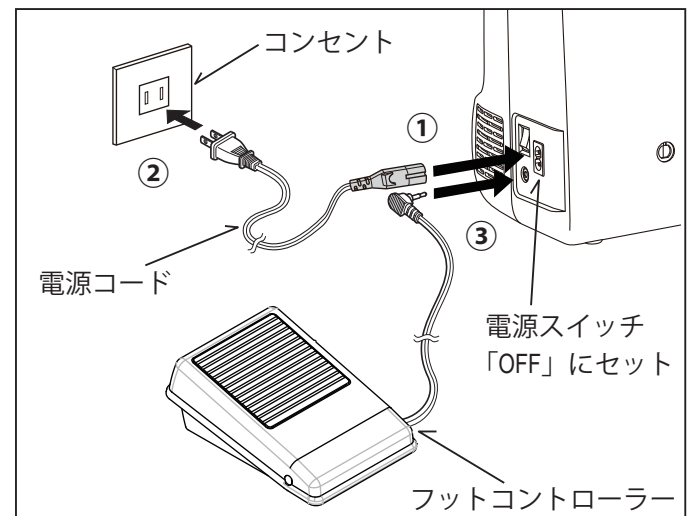
- フットコントローラーのピン③を本体のフットコントローラー差込口に差し込みます。このとき、必ず一番奥まで確実に差し込んでください。

- 本体の電源スイッチを「ON」にしてフットコントローラーを深く踏むと、ミシンの回転は速くなります。
最初は軽く踏んでゆるい速度で縫い始めてください。

お知らせ：

- ・フットコントローラー使用時はスピード調節レバーを「はやい」の位置にします。「はやい」の位置にしないとフットコントローラーで縫う速度の制御幅が狭くなります。

フットコントローラーを使用する場合



ご使用になる前に

スタート / ストップボタン

■ スタート / ストップボタン

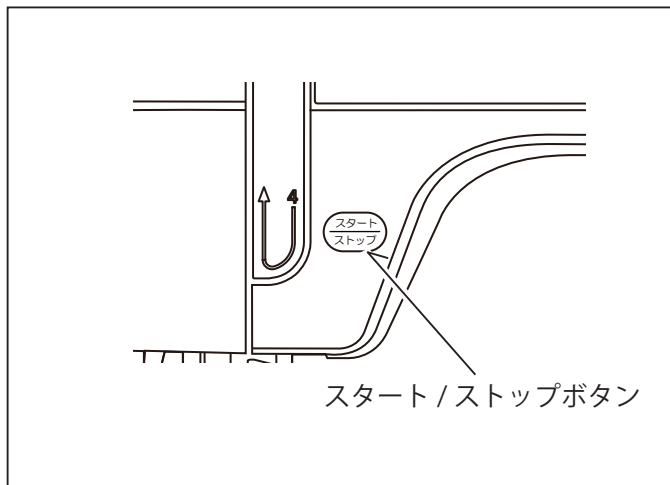
ボタンを押すと、動きはじめは安全のためにゆっくりスタートし、その後スピード調節レバーでセットした速さで動き始めます。もう一度押すと停止します。

※ 下糸巻き軸が右に寄っているときは、針は上下せず下糸巻き軸だけ回ります。

■ 長押しでゆっくりスタート機能

縫製中にスタート / ストップボタンを押し続けると、ミシンは低速で縫製します。ボタンを放すと縫製が停止します。

停止中にスタート / ストップボタンを押し続けると、低速で縫い始めます。ボタンを放すと、スピード調節レバーで設定した縫い速度まで徐々に速くなります。

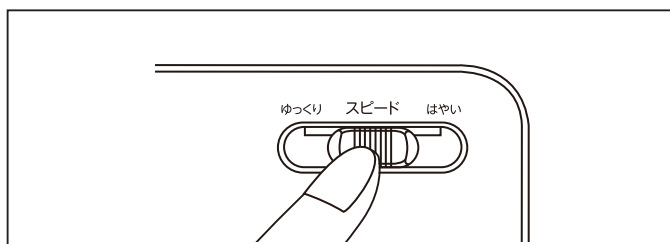


スピード調節レバー

ミシンの縫うスピードを設定します。

好みのスピードに設定してください。

スピード調整レバーを「ゆっくり」側にすると遅くなり、「はやい」側にすると速くなります。



ご使用になる前に

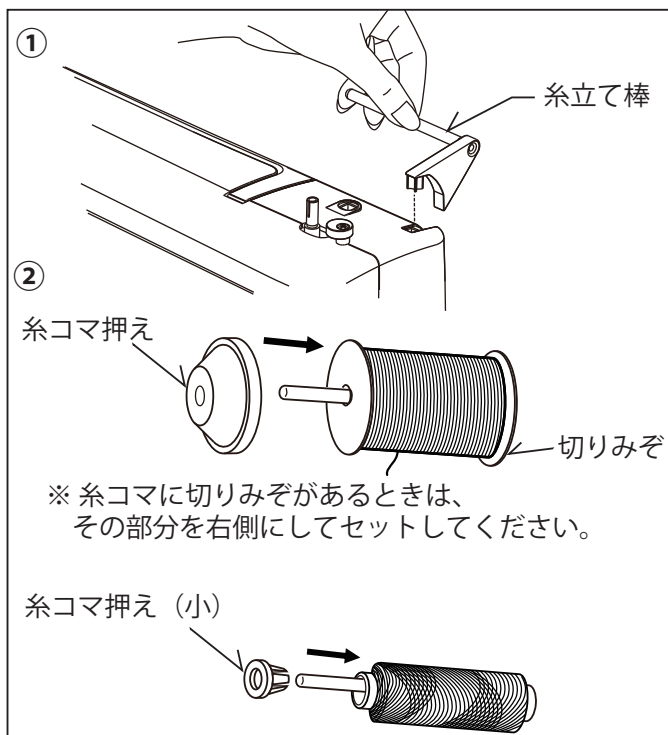
糸コマのセット

- ① 糸立て棒をミシンにセットします。
- ② 糸立て棒に、下側から手前に糸が出る向きにして糸コマを入れ、糸コマ押えで押えます。



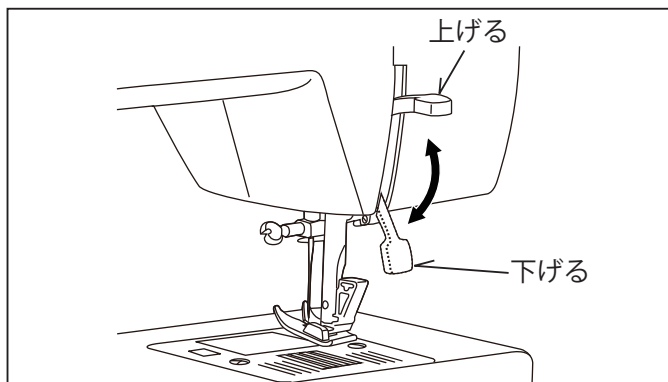
小さい糸を使用するときは、糸コマ押えを裏にして取り付け、糸コマから少し離してセットします。

糸コマが細いときには、糸コマ押え（小）をご使用ください。



押え上げ

縫うときは押え上げレバーを下げます。

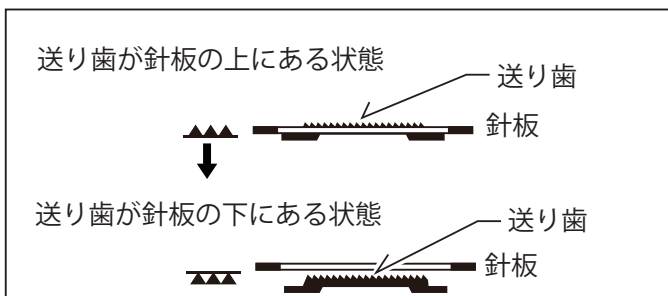
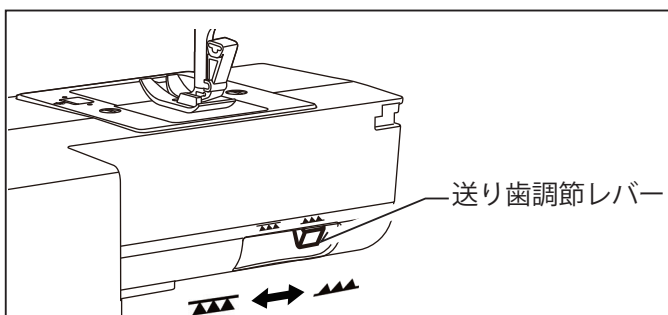


送り歯調節レバー

本体背面右下に送り歯を上げ下げできる送り歯調節レバーがあります。

針を上にした状態で、送り歯調節レバーをスライドして、▲▲▲ 位置にセットすると、送り歯が針板上面より下に沈みます。

また、▲▲▲ 位置にセットし、プーリーを手前に回すと、送り歯が針板上面に出きます。



ご使用になる前に

下糸の巻きかた

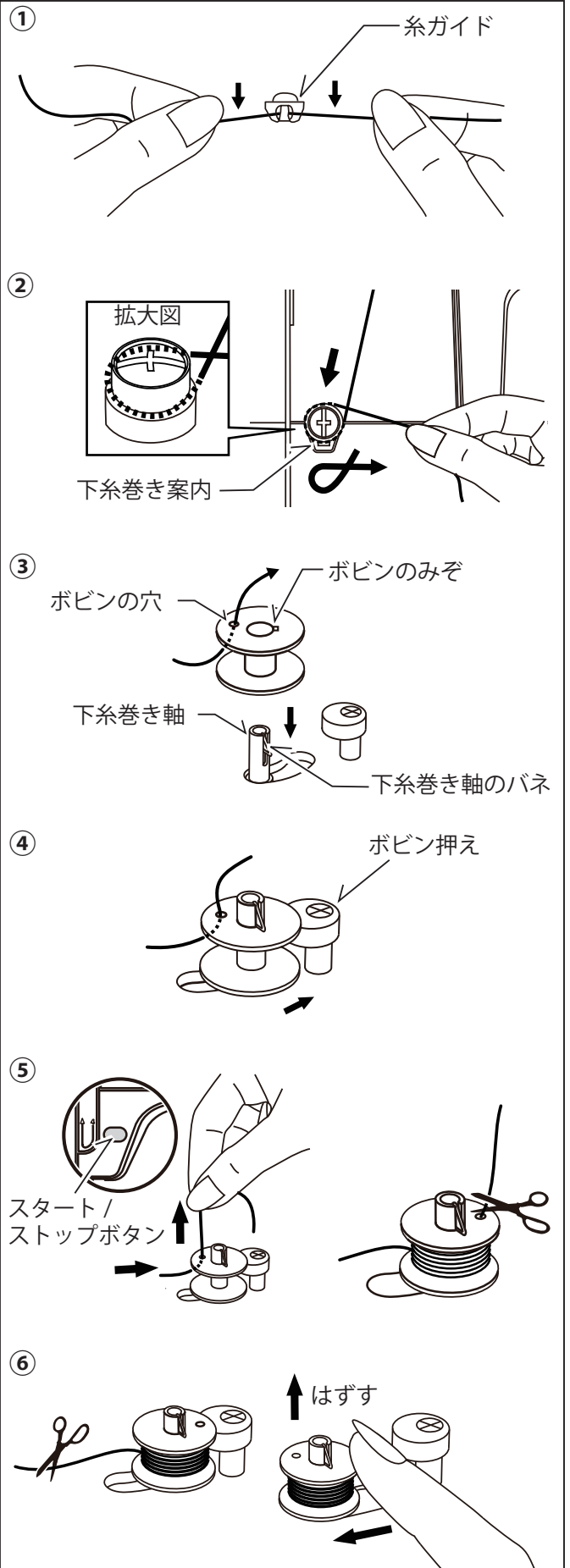
糸コマをセットします。

※糸コマのセットのしかたは9ページを参照ください。

- ① 糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの後ろから手前に糸を通します。
- ② かけた糸のはしをさらに引いて、下糸巻き案内の下すき間に、手前から後ろ（右回り）に糸をかけます。
※正しく糸がかかっていると、糸を右に引いたとき、抵抗感があります。
- ③ 下糸巻き案内にかけた糸を右に引き出し、ボビンの穴に内から外に通します。
ボビンのみぞと下糸巻き軸のバネの位置を合わせ、ボビンを下糸巻き軸に差し込みます。
- ④ 下糸巻き軸にセットしたボビンを右方向にスライドさせボビン押えに押し付けます。
- ⑤ ボビンの穴に入れた糸を、10 cmほど引き出し、そのまま糸のはしを手で真上方向に持ちます。
糸を持ったままスタート/ストップボタンを押し、少し糸を巻いたらいったん止めて、ボビンの上に引き出していた余分な糸を切ります。その後、再度スタート/ストップボタンを押して糸を巻きます。
- ⑥ 下糸がいっぱいになりボビンの回転がゆっくりになったら、すぐにスタート/ストップボタンを押してミシンを止めます。糸を切り、下糸巻き軸を左に戻してからボビンを取りはずしてください。



下糸巻き案内に糸がきちんとかけられていないと、図のように正しく巻けません。



ご使用になる前に

⚠ 注意

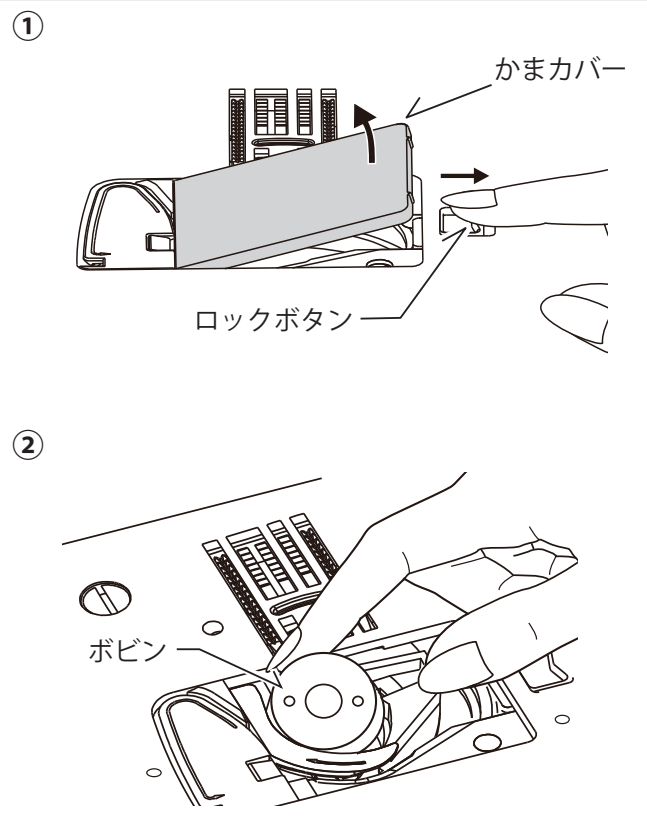
ボビンのセットは、必ず電源スイッチを「OFF」にしてから行ってください。

ボビンの取りはずしかた

ボビンの取り出しは、かまカバーを開けてから行います。

① かまカバーの右にあるロックボタンを右へスライドさせると、かまカバーが開きます。

② かまカバーをはずし、ボビンを取り出します。



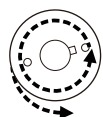
ご使用になる前に

⚠ 注意

ミシンを操作する際は、必ずかまカバーを閉めてください。

ボビンと下糸のセットのしかた

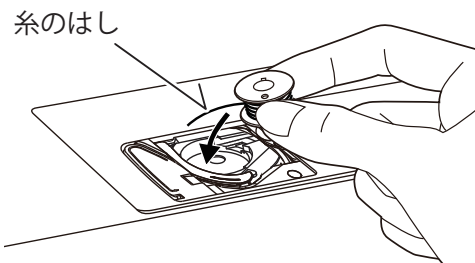
- ① かまカバーをはずし、糸のはしを出してかまの中にボビンが左回りになるように入れます。



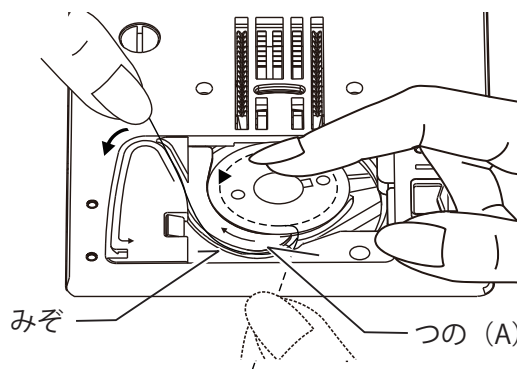
糸の方向

- ② ボビンを指で動かないように押えながら、糸を引き出し、手前のつの (A) の下に引っかけます。その後、糸を左にギュッと引きながら、針板のみぞに沿って糸を通します。
- ③ (B) の糸切りの位置で糸を右に引き、糸を切ります。
- ④ かまカバーの左の突起部分を、針板の下に差し込み、右側を押え、かまカバーを閉じます。下糸を引き上げることなく縫い始められます。

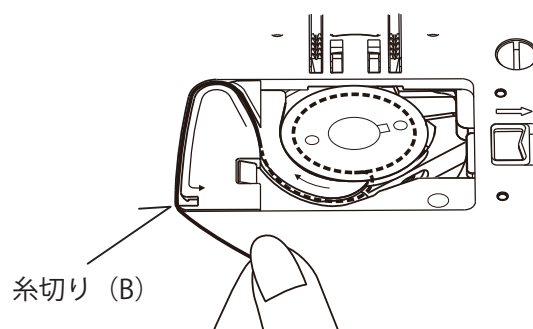
①



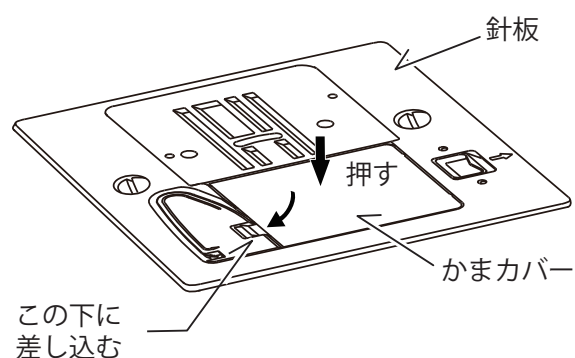
②



③



④



ご使用になる前に

⚠ 注意

上糸のセットは、必ず電源スイッチを「OFF」にしてから行ってください。
押え上げレバーを上げないで上糸をかけると、内蔵されている糸調子皿に糸が通らないため、糸調子が取れず、正常な縫いができません。

上糸のかけかた

- ① 上糸をかける前に、必ず押え上げレバーを上げます。
- ② プーリーを手前に回して、プーリーの目印線を最上点にします。
- ③ 図の順番に糸をかけます。

① 糸コマをセットします。

下側から手前に糸が出る向きにして、糸コマを糸立て棒にセットし、糸コマ押えで押えます。

② 糸ガイドの後ろから手前に糸を通します。

③ 上糸案内に後ろから手前に糸をかけます。

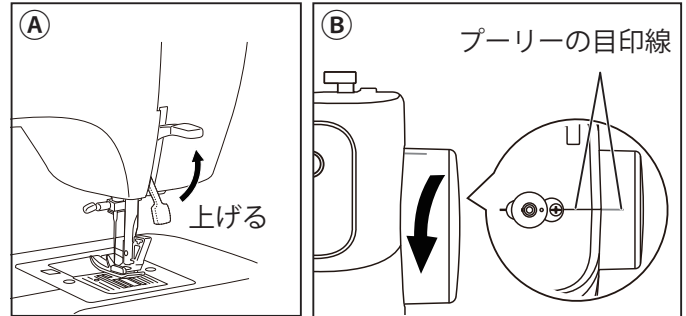
上糸案内の下に糸が通ります。

*下糸巻きの際に使用した、下糸巻き案内には糸を絶対にかけないでください。

④ 右側の糸道に糸を引き下して、糸を両手で持ち、糸調子皿の間に通します。

*糸調子皿は、ミシン内部の部品ですので、外からは見えません。

⑤ 糸を左側の糸道から上に引き上げます。



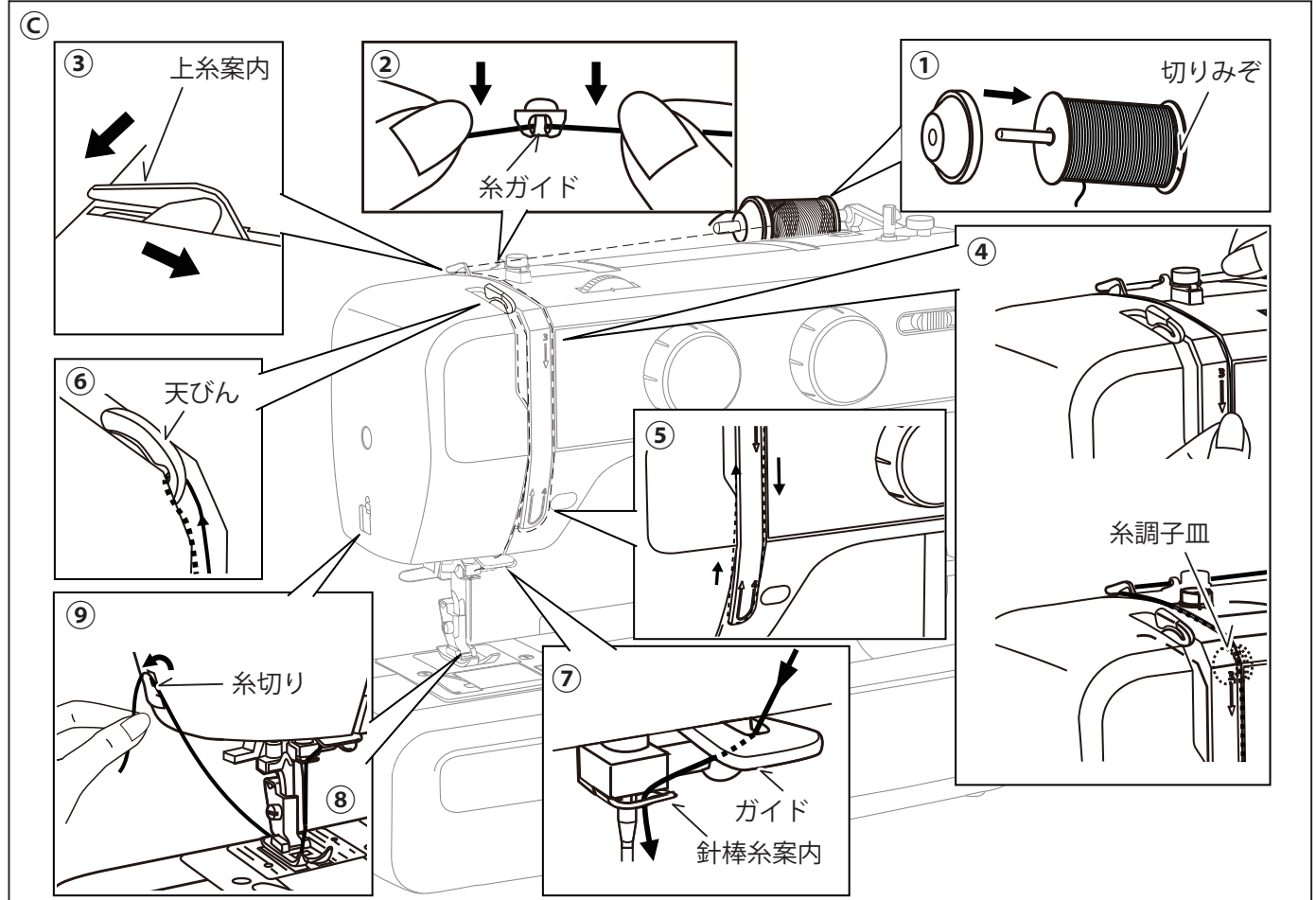
⑥ 天びんの右から後ろへ糸を回し、左前に引いて、天びんの手前の穴まで糸をかけます。

*糸は後ろからかけてください。

⑦ 引き下ろした糸を、ガイドに右奥からかけ、針の上にある、針棒糸案内に右奥から糸をかけます。

⑧ 針穴には前から後ろに糸を通します。

⑨ 余分な糸は糸切りでカットします。



ご使用になる前に

自動糸通し器の使いかた

- ① プーリーを手前に回して、プーリーの目印線を最上点に合わせ針を上げます。(13 ページ参照)
押え上げレバーを下げ、押えを下げます。

お知らせ：

糸通しが使用できる針は、11 番、14 番、16 番です。

- ② 糸通しレバーを軽く下げ、糸を糸通しの左側にあるガイドにかけてから、右に引いていきます。

- ③ 糸通しレバーを一番下まで下げると、糸通しが回転し、針穴にフックが通ります。

針穴が正しい位置でないとフックが通りません。

必ず、①の通り、プーリーの目印線を最上点に合わせて針位置を合わせてください。針穴にフックが通らないまま無理に押すと、フックが曲がり、針穴に通らなくなることがあります。

- ④ 糸を下側の糸通しフックガイドに沿わせるように中に入れ、フックの下にかけます。
針に沿うように近づけると、フックにかけやすくなります。

- ⑤ 糸のはしを軽く持ったまま、糸通しレバーを上げます。

糸が輪になって針穴に通ります。

糸通しレバーは元の位置に戻ります。

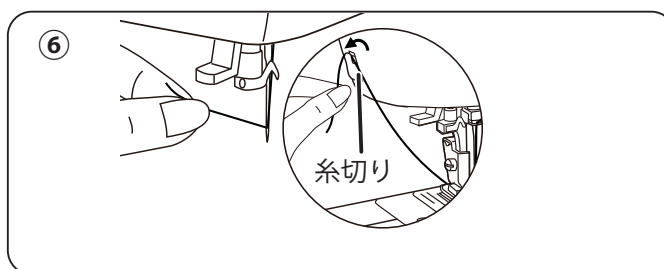
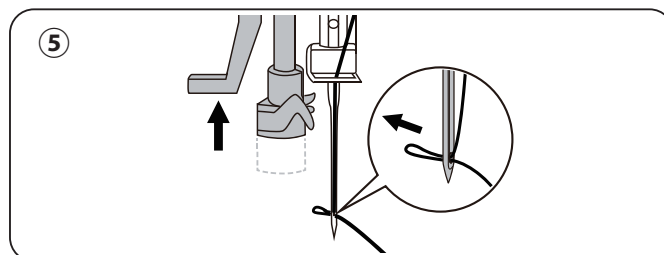
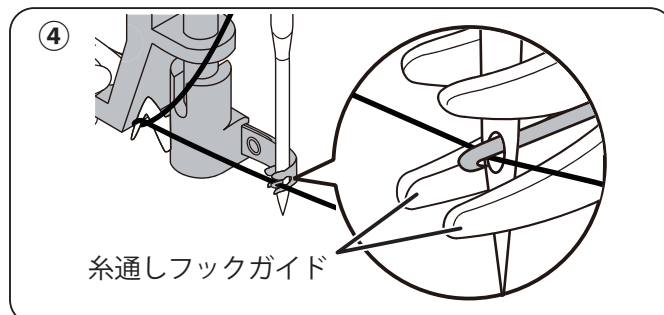
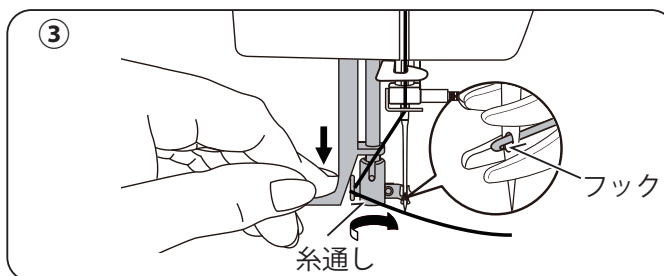
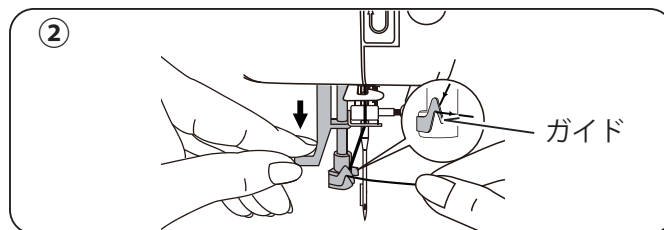
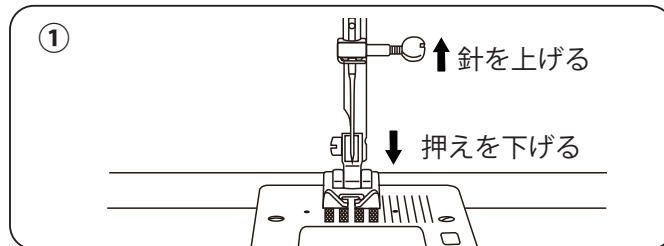
- ⑥ 輪になった糸を針の後ろ側へ引き、糸のはしを針穴から 10cm くらい引き出しておきます。余った糸はミシン本体左側面にある糸切りで切っておきます。

お知らせ：

9 番の針は自動糸通し器に対応していません。

手で糸を針穴に通してください。

細い針に太い糸を使用すると、糸通しできません。



⚠ 注意

ミシンが動いているときは糸通しレバーを下げないでください。故障だけでなく、針が折れ、けがの原因となります。

ご使用になる前に

針と糸と布の使いかた

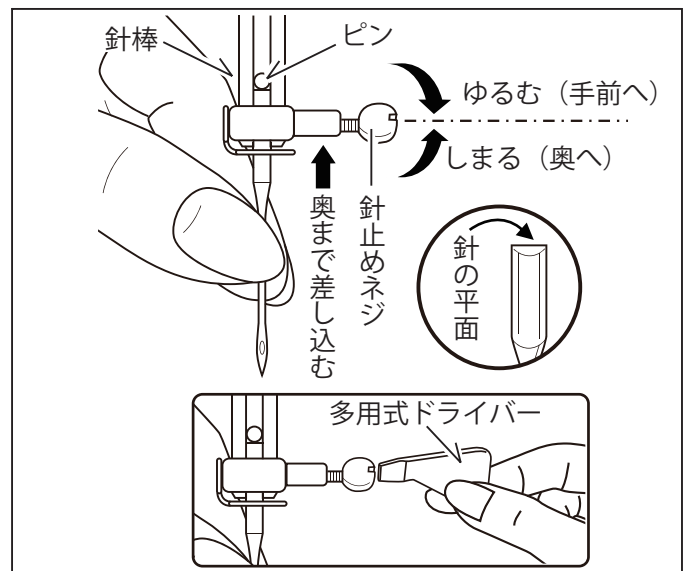
- HA × 1 家庭用ミシン針を使用してください。
- 布地に適した針と糸を使用してください。
- 上糸と下糸は通常同じ種類の糸を使います。
- 曲がった針や先の丸くすりへった針は使用しないでください。

布 地	糸 (番手が大きいほど細くなります)	針 (番手が大きいほど太くなります)
薄物地：合織布（アセテート）、絹地など アドバイス：縫いしわを防止するには縫目ピッチ 2 ～ 3 ミリをおすすめします。	カタン糸（木綿糸）、 化繊糸（シャッペスパン）、絹糸 90 番	9 ～ 11 番
普通地：木綿地（ブロード・キャラコ・シーティングなど）、 毛織物（フラノ・フェルトなど）、合織布（ギャバジンなど）、絹地 アドバイス：穴のあいているレースを縫う場合、布の下に紙を敷いてください。	カタン糸（木綿糸）、 化繊糸（シャッペスパン）、絹糸 50 ～ 80 番	11 ～ 14 番
厚物地：木綿地（デニム・タオルなど）、毛織物（ツイード・フェルトなど）、 合織布（レーヨンなどのカーテン地）	カタン糸（木綿糸）、 化繊糸（シャッペスパン）、絹糸 30 ～ 60 番 アドバイス：30 番糸使用時には、16 番の針をご使用ください。 20 番などの太い糸の使用は控えてください。	14 ～ 16 番
伸縮地：ジャージー、トリコット、メリヤス、ニット地などの 伸縮性のある布地	ニット用糸、 化繊糸（シャッペスパン）、絹糸 50 ～ 80 番	11 ～ 14 番 アドバイス：ニット針の使用を おすすめします。

※ナイロン透明糸を使用される場合、糸の太さ / 布の種類に関係なく、針の太さは 14 番～ 16 番をおすすめします。
下糸はボビンに対して、約半分～ 7 分目迄を目安としてボビンに巻いてください。上糸調節ダイヤルを「0」から試し縫いをし調整してください。

針の取りかえかた

1. 電源を切ります。
2. プーリーを手前に回し、針棒を一番上に上げます。
3. 押え上げレバーを下げ、押えを下げます。
4. 針止めネジを多用式ドライバーで手前に回しゆるめ、針を下に引き抜きます。
5. 新しい針の裏面（平らな面）を向こう側に向け、針棒のピンに当たるまで深く差し込んで、針止めネジを多用式ドライバーで締め付けます。



⚠ 注意

針を取りかえるときは、必ず電源スイッチを「OFF」にしてください。
針は必ず家庭用ミシン針（HA × 1）をご使用ください。
曲がった針や針先がつぶれた針は危険ですので、ご使用にならないでください。
針は消耗品になります。急に縫い目がおかしくなったり、縫っているときに、今までと違う音がした場合は、針が傷んでいます。すぐに交換してください。

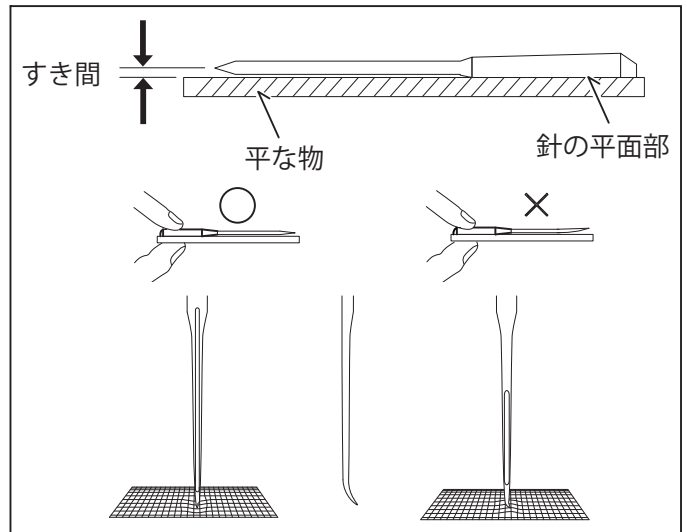
ご使用になる前に

針が曲がっていないかチェックする

針の平面部を平らな物（例えば針板など）の上に置き、すき間が針先まで平均に見えるか確認します。針先が曲がったり、つぶれている物は使わないようにしてください。

⚠ 注意

曲がった針は使用しない。

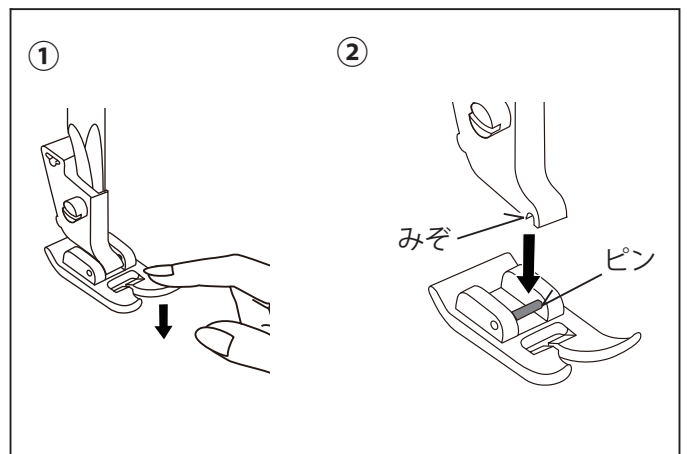
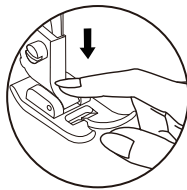


押えの取りかえかた

① プーリーを手前に回し、針を上げます。押え上げレバーを上げて、押えを上げます。押えを下に押すと、押えがはずれます。

② 押えのピンが、押えホルダーのみぞの真下に来るようにして、押え上げレバーを下げます。

※ ピンがみぞにうまく取付かないときは、押えホルダーの上から軽く押してください。



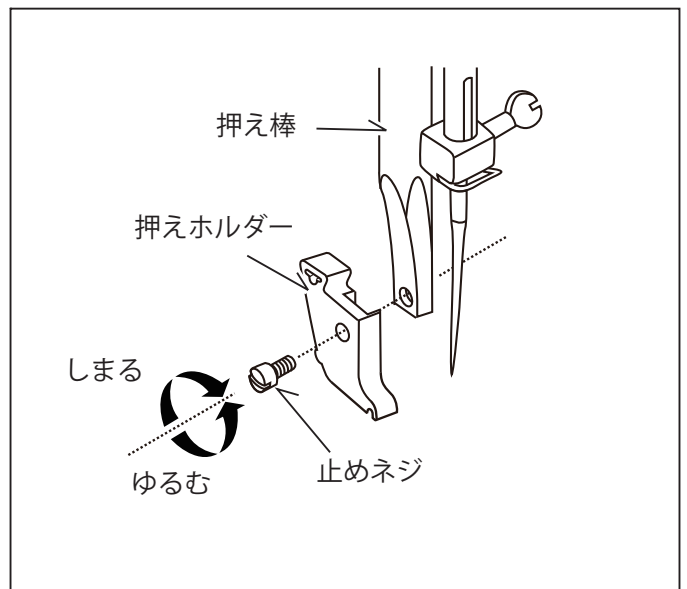
押えホルダーの取りはずしかたと取り付けかた

■ 押えホルダーの取りはずしかた

押え上げレバーを上げ、押えを上げます。
押えを取りはずし、多用式ドライバーを使い、止めネジを奥に回しゆるめて、押えホルダーを取りはずします。

■ 押えホルダーの取り付けかた

押えホルダーのネジ穴と押え棒のネジ穴の高さを合わせ、止めネジを取り付けます。
止めネジは多用式ドライバーで手前に回して締め付けます。



押えの交換は、押えホルダーは取り付けたまを行います。取りはずす必要はありません。

⚠ 注意

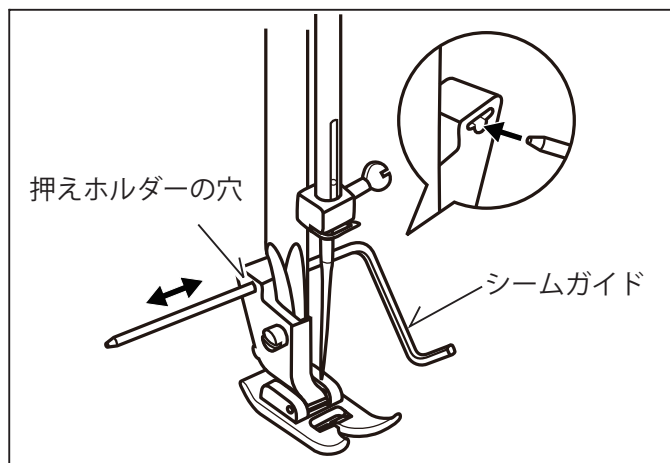
押え / 押えホルダーの取りかえは、必ず電源スイッチを「OFF」にしてから行ってください。

ご使用になる前に

シームガイドの取り付けかた

シームガイドは、取り付けることで、平行のステッチや均一なステッチを縫うためのガイドになります。

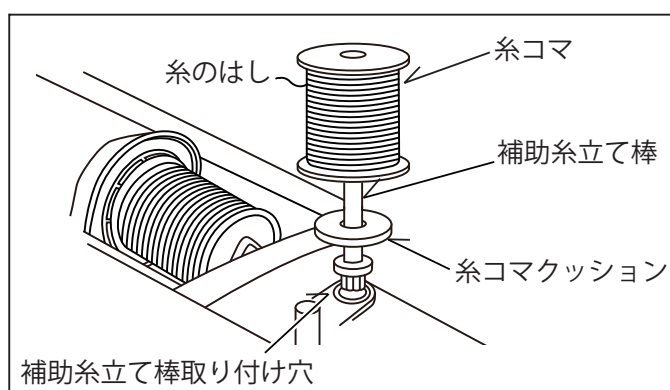
押えホルダー後ろ上部にある穴に右側から差し込み取り付けます。



補助糸立て棒の使いかた

付属の補助糸立て棒を使うと、ミシンに付いている糸立て棒に糸コマをセットした状態のまま、別の糸コマで下糸巻きができます。

補助糸立て棒を使う時は、右図のように、補助糸立て棒に、糸コマクッションを差し込んでから、補助糸立て棒取り付け穴に差し込んでください。下糸巻きの方法は、糸コマから糸を引き出し、10 ページの①～⑥と同じ手順でボビンに下糸を巻きます。



下糸の引き上げかた

縫い始める前に下糸を余分に引き出しておきたいときは、下記の手順に従って糸を引き出します。

① 押え上げレバーを上へ上げ、針に通した糸を左手で持ちます。
プーリーを手前に回して、針をいったん針板の下に下ろし、その後上げます。

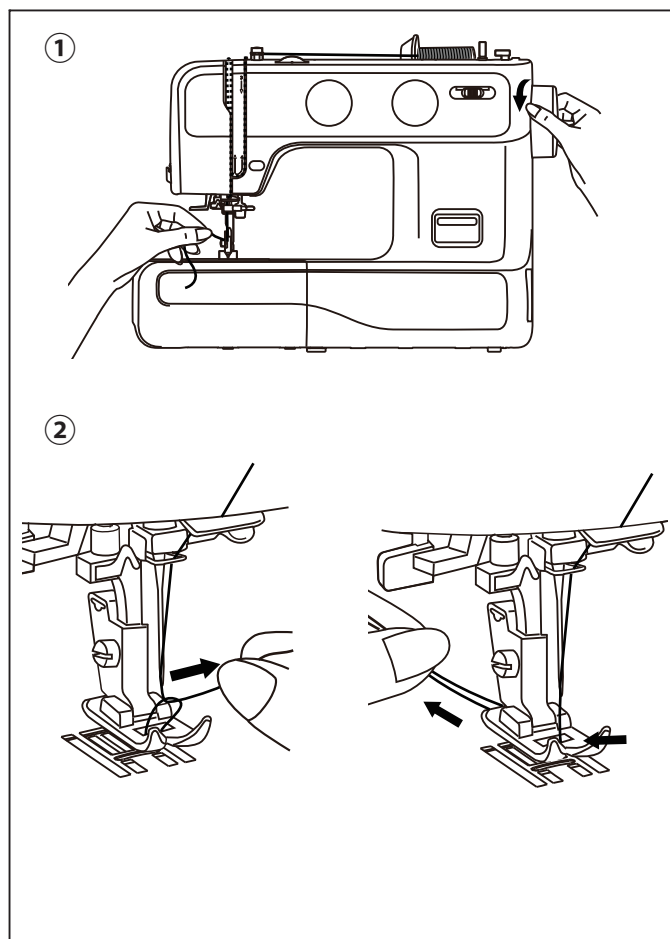
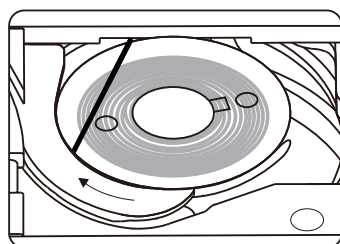
② 上糸を軽く引っ張ると、下糸が引き出されます。
上糸と下糸をそろえ、押えの下から後ろ側に 10cm くらい出しておきます。

■ 正しくセットできたかを確認する方法

下糸を引き上げた後、ボビンを上から見ると左上に 1 本糸がかかった状態となります。

かかっていないと糸調子がとれず、きれいに縫えません。

もう一度下糸をセットし直してください。



ご使用になる前に

上糸調子のと리카た

■ 上糸調子ダイヤル

通常、上糸調子ダイヤルを「4」に合わせ、普通地用に使用される（#50～60）の糸で縫った場合に糸調子が合うように設定されています。

糸調子は、上糸調子ダイヤルを回し調整します。

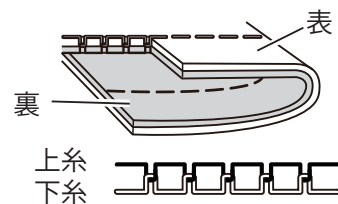
【糸調子を強くする】 ダイヤルの数字を大きくする

【糸調子を弱くする】 ダイヤルの数字を小さくする

■ 正しく調節されている場合

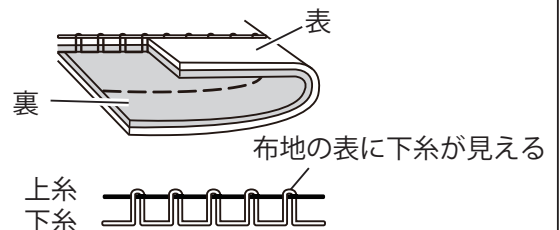
右図のように、上糸と下糸が布の中間で交差し、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていないのが正常な縫い目です。

布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合や、ギャザー寄せなどをするときには、下記のように上糸調子ダイヤルを回して、調節してください。



■ 上糸が強い場合

布の表の糸が1本になっているときは、ボビンが正しくセットされていません。正しくセットし直してください。または、上糸の糸調子が強いので、上糸調子ダイヤルの数字を小さくして糸調子を弱くしてください。

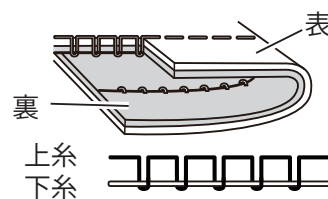


■ 上糸が弱い場合

布の裏側の糸が1本になっているときは、上糸の糸調子が弱いので、上糸調子ダイヤルの数字を大きくして糸調子を強くしてください。

ダイヤルを回しても糸調子が合わない場合には、上糸のかけ方が誤っている場合があります。

一度上糸をはずし、13ページをご確認いただき、正しくかけ直してください。

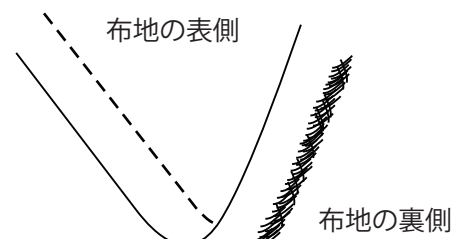


■ 布地の裏側がタオル地のような場合

右図のように、布地の表側は普通に縫えて、裏側がタオル地のように糸が出ているのは、上糸をセットする際に、押え上げレバーを下げたまま糸かけをしてしまっていたり、上糸調子が弱い場合に起こる現象です。

13ページをご確認いただき、正しく糸をかけ直してください。

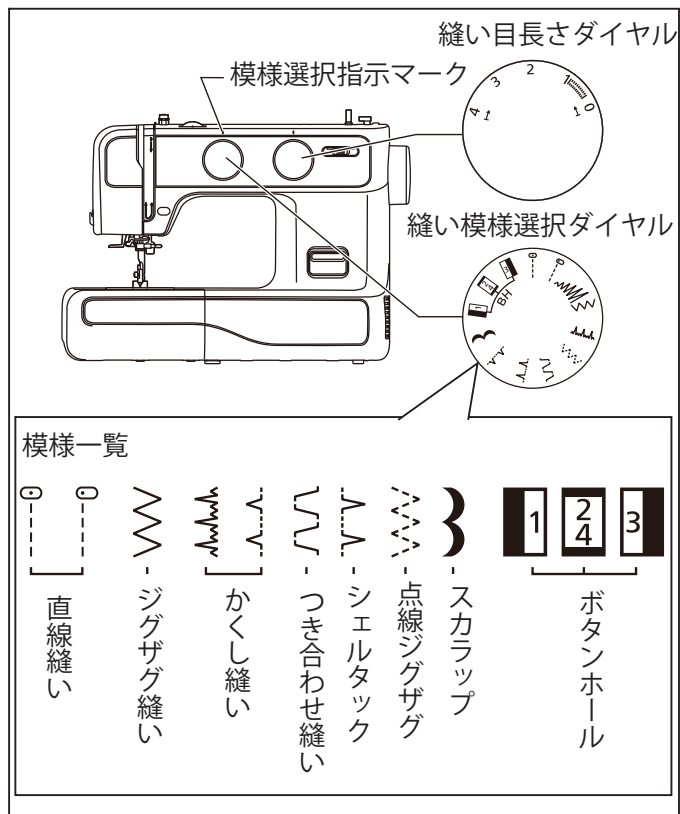
上糸調子を調節する際は、上記をご確認ください。



ご使用になる前に

縫い模様の選択

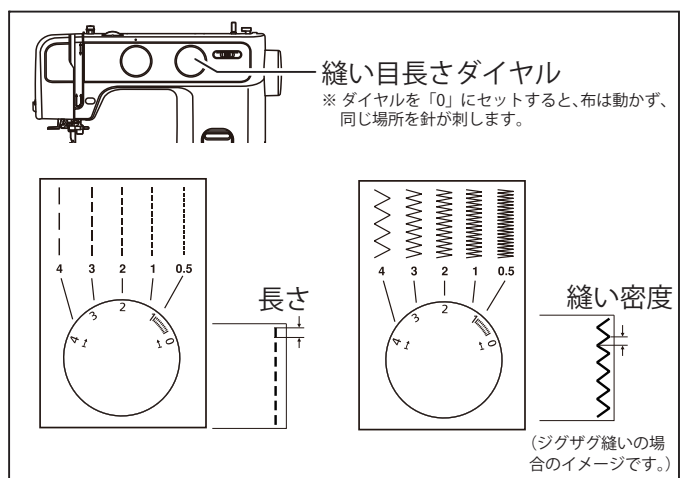
縫い模様選択ダイヤルを回して、模様選択マークに縫いたい模様を合わせて模様を選択してください。



縫い目の長さ・ふり幅の調整方法

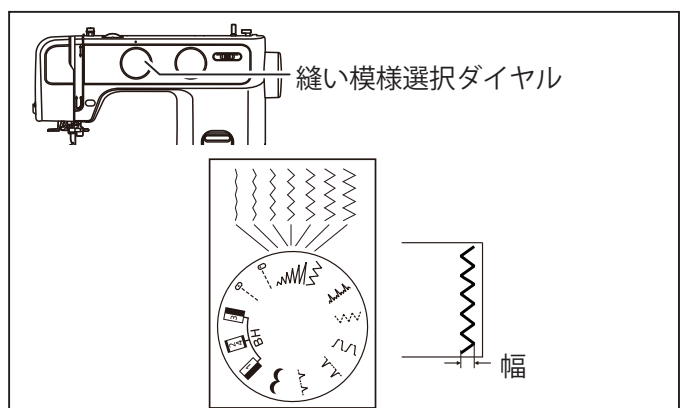
縫い目の長さの調整方法

- 直線縫いの場合
縫い目長さダイヤルで、縫い目の長さを 0.5 ～ 4mm に調整できます。
- 直線以外の模様の場合
縫い目長さダイヤルで、縫い密度を 0.5 ～ 4mm に調整できます。



ふり幅の調整方法

ジグザグ模様は、縫い模様選択ダイヤルの、
" " で、ふり幅が変更できます。



⚠ 注意

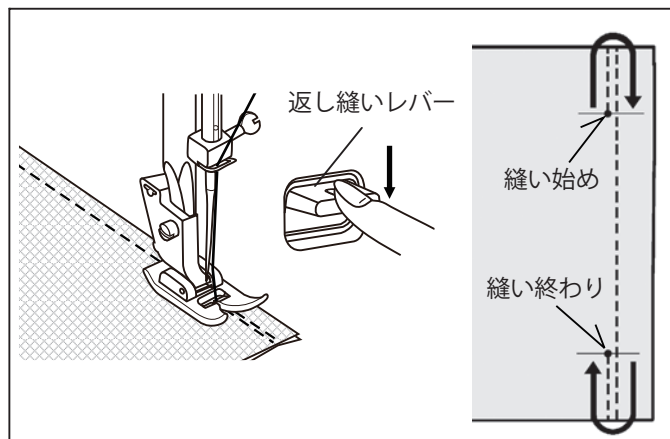
縫い模様選択ダイヤルを回すときは、必ずミシンを止めて、針を布地から上げてください。
針が布地に刺さっている状態では、針が折れ、ケガをする原因となることがあります。

正しい使いかた

返し縫い（縫い始め／縫い終わり）

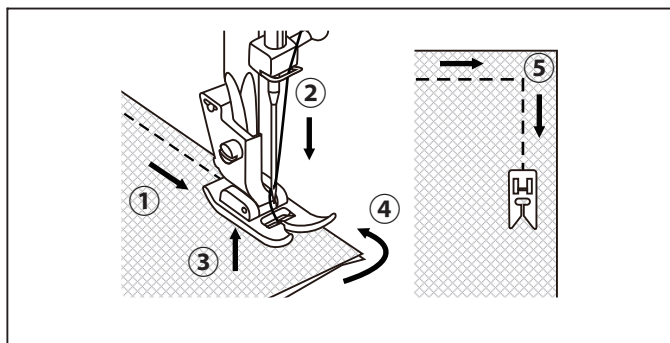
返し縫いレバーを押し下げると、押している間、返し縫いをして、手を放すと止まります。

縫い始めと縫い終わりに3～5針返し縫いをしておくと、縫い目がほころびず、丈夫になります。



縫い方向のかえかた

- ① 布の角まで来たら、ストップします。
- ② プーリーを手前に回し、針を下げ、布に刺します。
- ③ 押え上げレバーを上げます。
- ④ 針を軸にして布地を回し、布地を縫い方向にセットします。
- ⑤ 押えを下げて、縫い始めます。



縫いにくい布地の縫いかた

針と糸と布の使いかたは15ページを参照ください。

段縫い

布送りがスムーズでない場合、手で布の送りを助けながら縫います。

薄地（レース地、薄物布）

レース地や薄い布の場合、細い針（9番・11番）とそれに適した糸を使用します。

お知らせ：

布地によっては、布の下に薄い紙（半紙、ハترون紙など）を敷くと目とびや縫いしわを防ぐことができます。

薄物の縫い始めは、上糸と下糸の端を少し引っ張りながら縫います。

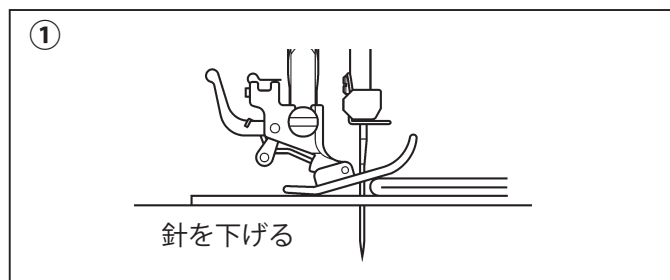
縫い目長さは"こまかく"してください。

厚地（タオル布）

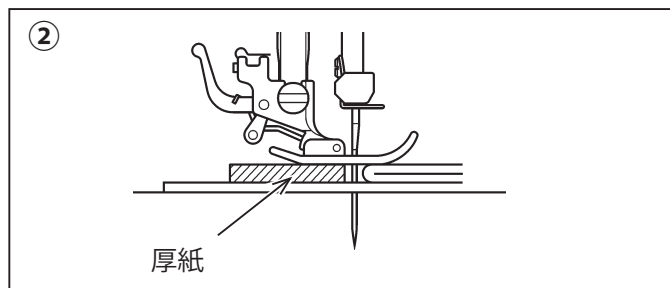
タオル布の種類によっては、送り歯にタオル布が引っかかり、布送りがしにくい場合があります。この場合はタオル布の下に薄い紙を敷き、太い針（16番など）を使用しゆっくり縫います。縫ったあとタオル布から紙を取り除きます。

お知らせ：縫い目長さは"あらく"してください。

重なった厚地の布を縫う場合



- ① 図の状態でもシンを止め、針を下げます。



- ② 同じ厚さの布地または厚紙を押えの下に敷いて縫います。
布送りがスムーズとなり、目とびも防げます。

正しい使いかた

直線縫い

■ ミシンのセット

押え「標準押え」

縫い模様選択ダイヤル「直線縫い」

縫い目長さダイヤル「0.5 ～ 4」

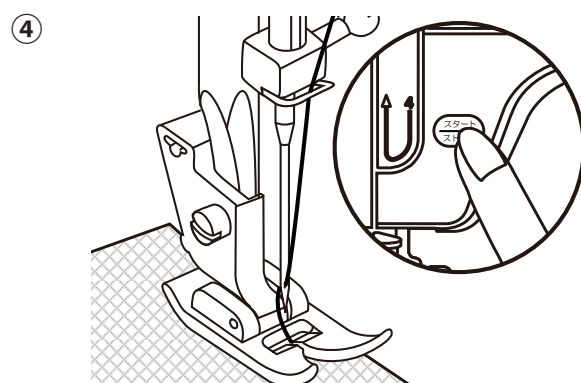
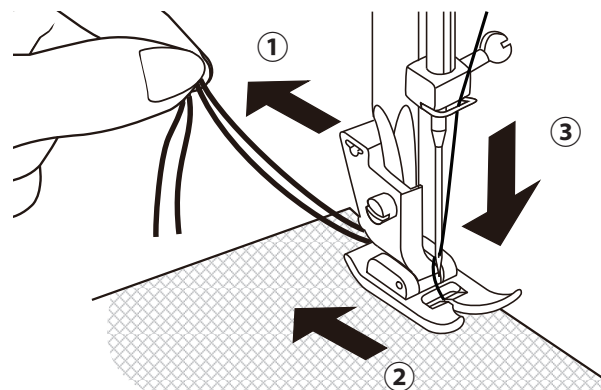
- ① 上糸と下糸をそろえて押えの下から向こう側へ10 cm ほど引き出します。
- ② 布を押えの下に入れ、プーリーを手前に回して、針を布に落とします。
- ③ 押え上げレバーを下げ、押えを下げます。
- ④ スタート/ストップボタンを押して縫い始めます。



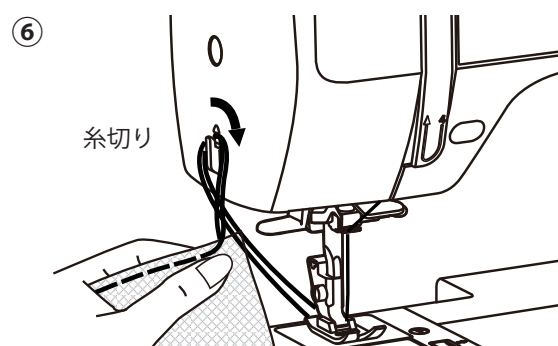
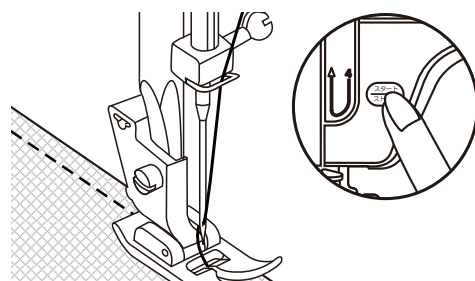
縫いながら、スピード調節レバーで、スピードを調節できます。

- ⑤ 布端まで来たら、スタート/ストップボタンをもう一度押してミシンを止めます。

- ⑥ 針と押えを上げ、布地を後ろへ引き出し、糸切りで糸を切ります。
切った糸は、そろえて後ろへ引いておきます。



- ⑤ スタート/ストップボタン



⚠ 注意

最初のひと針は、必ずプーリーを手で回し、布に針が刺さった状態から操作を始める。
ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけない。指がはさまる、針が刺さるなどのけがの原因となります。
縫うときは布を無理に引っ張ったり、押したりしない。指がはさまる、針が刺さるなどのけがの原因となります。

正しい使いかた

ファスナー付け

■ ミシンのセット

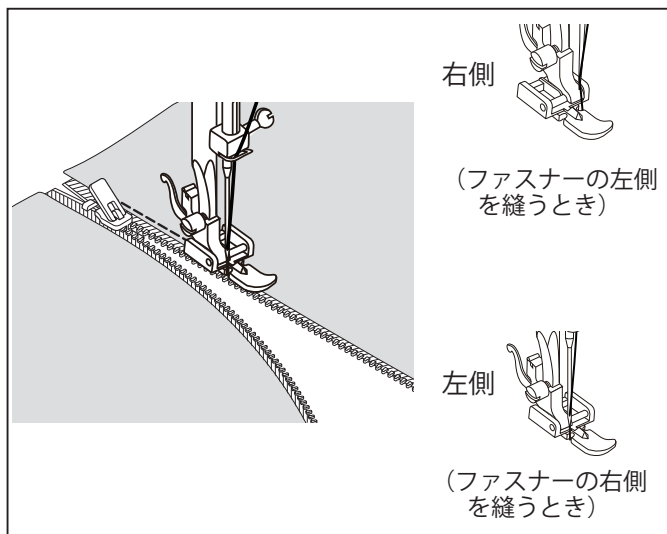
押え「ファスナー押え」

縫い模様選択ダイヤル「直線縫い」

縫い目長さダイヤル「1～4」

ファスナーの右側を縫うときは、ファスナー押えを押えの左側のピンに取り付けて縫います。

左側を縫うときは、ファスナー押えを押えの右側のピンに取り付けて縫います。



⚠ 注意

ファスナー押え使用時は、必ず中基線の直線縫い（)縫いを選択してください。他の模様を選択すると、針が押えに当たって危険です。

ジグザグ縫い

■ ミシンのセット

押え「標準押え」

縫い模様選択ダイヤル「ジグザグ縫い」

縫い目長さダイヤル「0.5～4」

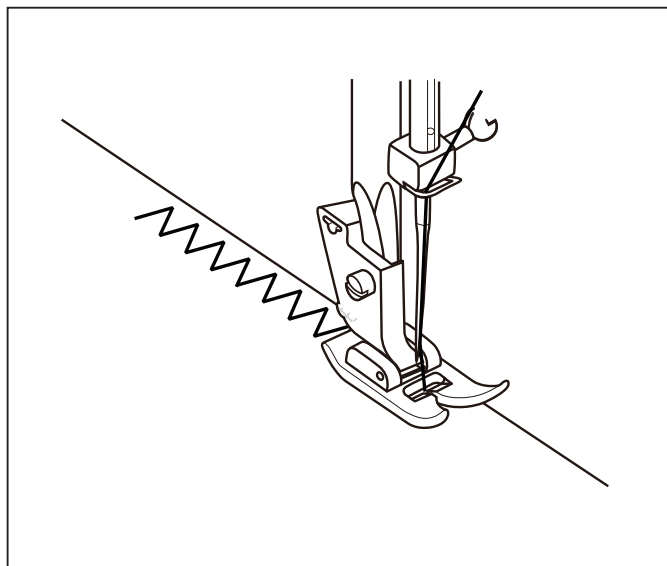
縫い目長さダイヤルの目盛を「0」に近づけるにしたがい、密着したジグザグ縫いになります。

布に応じて縫い目長さダイヤルで、縫い目の長さ（密度）を調節してください。

ジグザグのふり幅は、縫い模様選択ダイヤルの

“”で調整します。

調節方法は 19 ページをご確認ください。



正しい使いかた

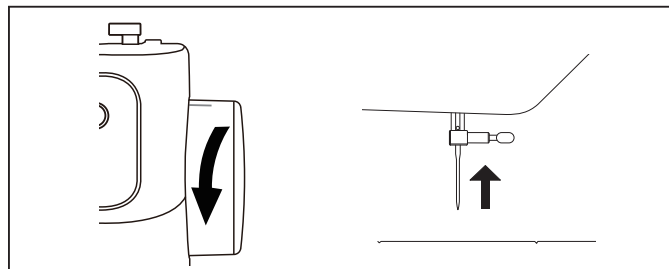
点線ジグザグ縫い

■ ミシンのセット

押え「標準押え」

縫い模様選択ダイヤル「点線ジグザグ」

縫い目長さダイヤル「0.5 ～ 4」



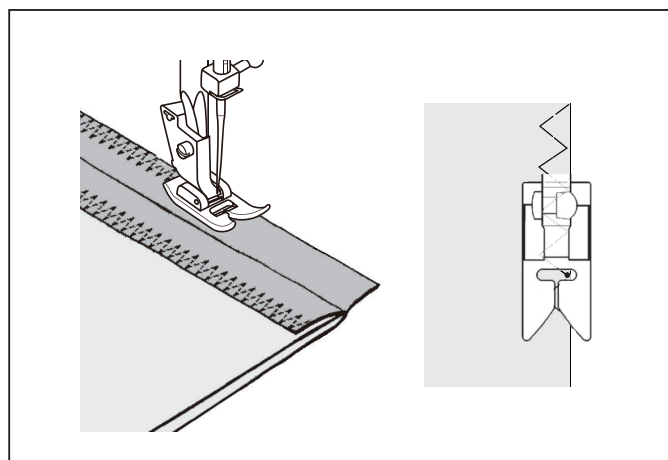
プーリーを手前に回し、針を最上点に上げます。

裁ち目かがり

縫い目長さダイヤル「1 ～ 2」

縫い目長さダイヤルの目盛を「0」に近づけるにしたがい、密着したジグザグ縫いになります。

点線ジグザグ縫いは、ジグザグ縫いが一針で縫うところを三針で縫いますので、丈夫に縫え、伸縮性があります。また、様々な種類の布の裁ち目かがりにも使えます。



正しい使いかた

かくし縫い

■ ミシンのセット

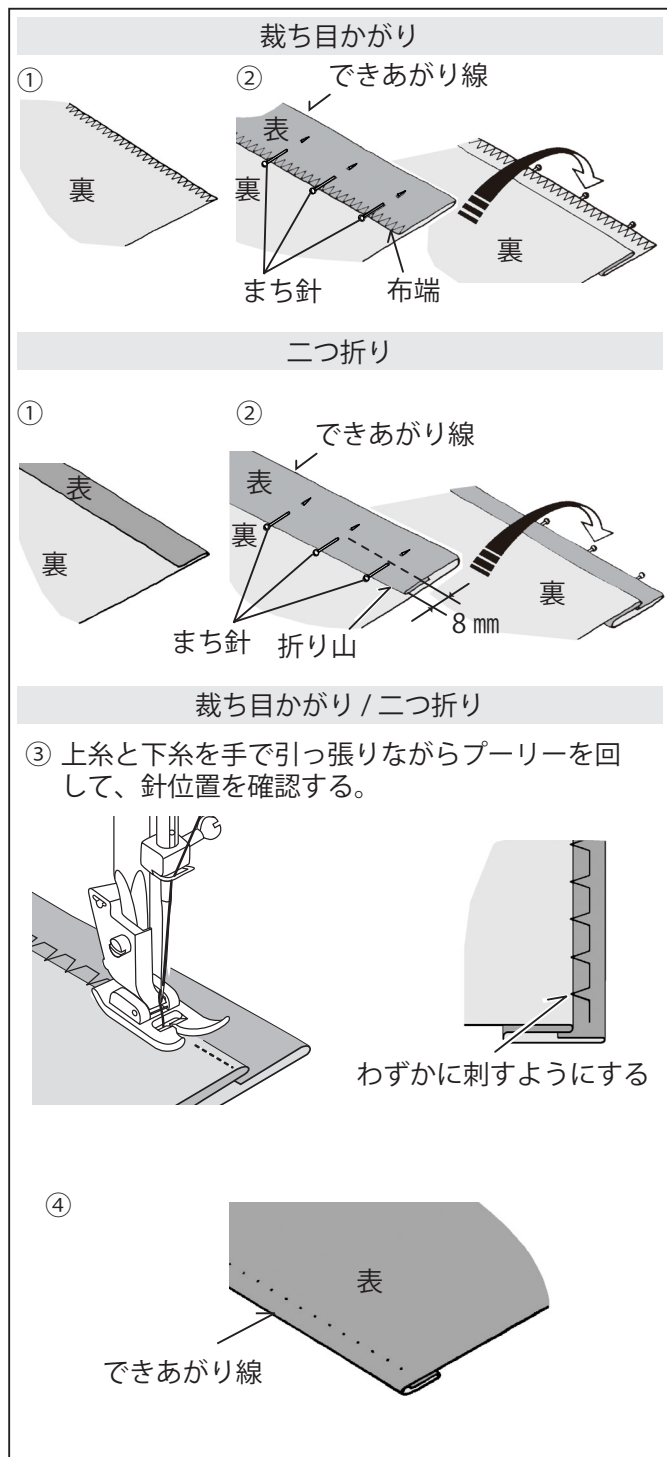
押え「標準押え」

縫い模様選択ダイヤル「かくし縫い」

縫い目長さダイヤル「1～4」

スカートやズボンなどの裾をまつり上げる方法で、布表の縫い目が目立たないように縫うことができます。

- ① 布端を裁ち目かがりするか、二つ折りにします。
- ② できあがり線に沿って布を折り、折り山から約 8 mm 入ったところから裾に向かって、図のようにまち針で留めます。まち針を持って折り返します。
- ③ プーリーを手前に回し、針が左に振れたときに布の折り山をわずかに刺すように布の位置を合わせます。まち針は押えの手前に来たら順に抜いていきます。
- ④ 布を表に開くとできあがりです。



正しい使いかた

飾り縫い

■ ミシンのセット

押え「標準押え」

縫い模様選択ダイヤル「シェルタック」

「スカラップ」

縫い目長さダイヤル「0.5～1」

シェルタック

布はしの飾り縫いに使います。

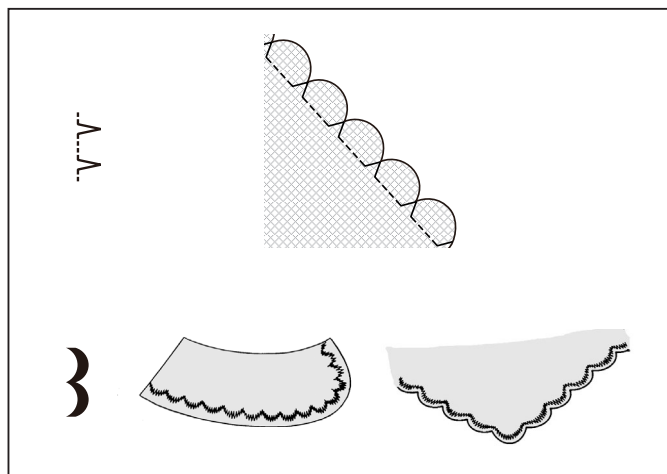
薄手の伸縮性のある布に適しています。

縫い模様選択ダイヤルは  にセットします。
針が右振れしたときに、生地のはしにくるように布地を
セットしてください。

スカラップ

そでやえりなどの縁飾りとして、また端の始末などに利用できます。

縫い模様選択ダイヤルは  にセットします。
布の表から布はしを1cmくらい残して縫います。
糸を切らないように、縫い目の外側の布を縫い目に沿って切り落とします。



正しい使いかた

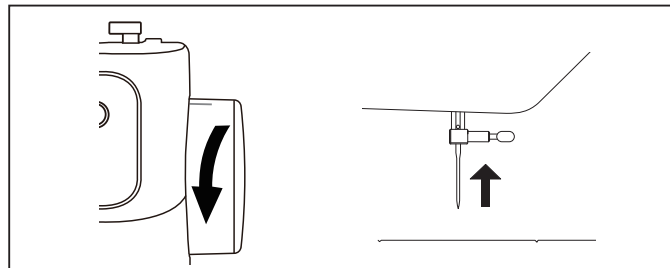
ボタンホール（ボタン穴かがり） 1 2・4 3

■ ミシンのセット

押え「ボタンホール押え」

縫い模様選択ダイヤル「1」「2・4」「3」

縫い目長さダイヤル「1 2 4 3 BH 位置」



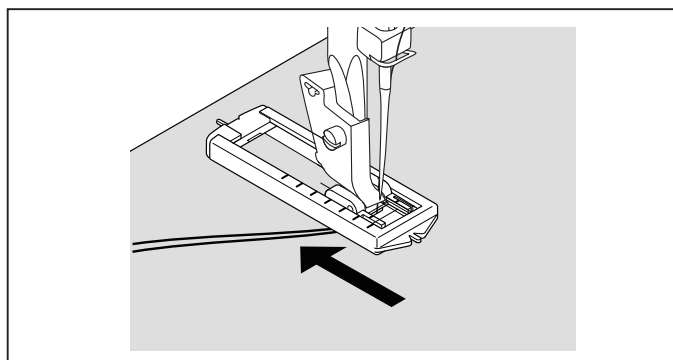
プーリーを手前に回し、針を最上点に上げます。

ボタンホール押えをセットし、ボタンホール押えを奥側に押し、縫い始めの位置に合わせて押えを下げます。



ヒント

伸縮性のある布地や薄地で、送りにくい場合は、布地の裏に不織布の接着芯を貼ってください。
使用される布切れで試し縫いをされることをおすすめします。



1		縫い模様選択ダイヤルの、1～4の順にダイヤルを合わせ、ボタンホールを縫います。 まず、ボタンホール1の模様を選択します。 1は、ボタンホールの左側を縫います。 布に付けた印の上の部分まで縫ったらストップします。
2・4		次に、縫い模様選択ダイヤルをボタンホール2・4模様に変更します。 ※ダイヤルを変更するときは、針を上げて変更します。 4～5針縫ったらストップします。
3		次に縫い模様選択ダイヤルをボタンホール3模様に変更します。 ※ダイヤルを変更するときは、針を上げて変更します。 3はボタンホールの右側を縫います。 布に付けた印の下の部分まで縫ったらストップします。
2・4		最後に縫い模様選択ダイヤルをボタンホール2・4模様に変更します。 ※ダイヤルを変更するときは、針を上げて変更します。 4～5針縫ったらストップします。 ※②と④は同じ動作です。 ボタンホールの上下部分、どちら側を縫っているかの違いです。
	まち針	縫い終わったらシームリッパーで中央の布地を切り開きます。その際、まち針を左図のようにさし、縫い糸を切らないように注意してください。

正しい使いかた

ボタン付け

■ ミシンのセット

押え「ボタン付け押え」

縫い模様選択ダイヤル「ジグザグ縫い」

送り歯調節レバー 

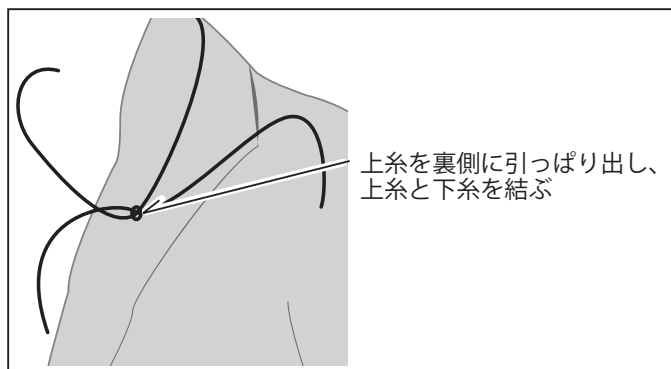
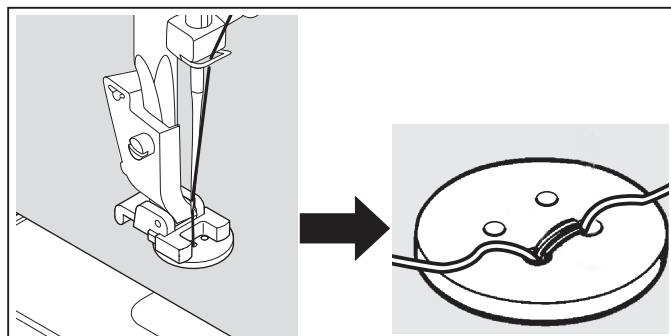
送り歯調節レバーで送り歯を下げ、布を送らないようにします。

※ 送り歯の下げかたは、9 ページの送り歯調節レバーの内容を参照ください。

お願い：

ボタン付けはゆっくり縫ってください。

1. 布のボタンを取り付ける位置にボタンを置き、押えを下ろします。
2. プーリーを回し、左右のボタン穴に針が落ちるか確認します。必要ならばふり幅を微調整します。
3. ジグザグ縫い・返し縫いを繰り返し 10 針ぐらい縫います。
4. ボタン縫い付けの裏側の下糸を引っ張り、上糸を裏側に引っ張り出し、上糸と下糸を結びます。



お手入れのしかた

⚠ 注意

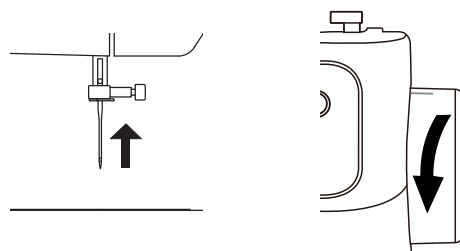
お手入れの際、シンナーやベンジンで拭いたりしないでください。変質・破損・塗料はがれの恐れがあります。
安全のために必ず電源スイッチを「OFF」にし、電源プラグをコンセントから抜いてください。けがの原因となります。

送り歯とかまの掃除

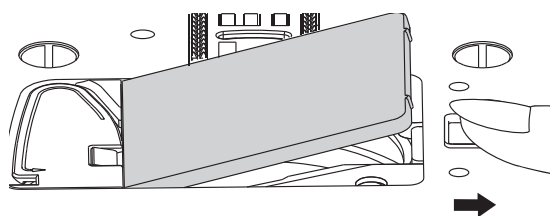
ボビンケースやかまに糸がからんだ場合または、ボビンケースの位置がずれた場合も、次の順序で行ってください。

- ① プーリーを手前に回し、針位置を最上点に上げて、押えと針をはずします。
- ② かまカバーをはずして、ボビンを取り出します。
- ③ 針板の止めネジ（2か所）を、付属の多用式ドライバーで左回りに回してはずし、針板を取りはずします。
- ④ ブラシで送り歯の糸くずやほこりを掃除します。
- ⑤ ボビンケースをブラシで掃除して、布などで軽くふきます。

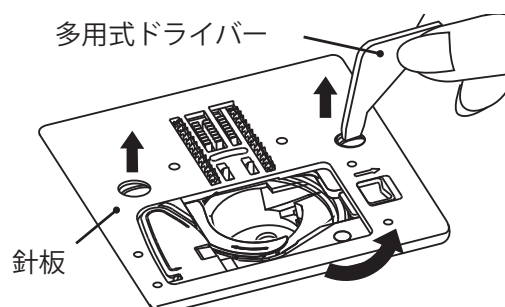
①



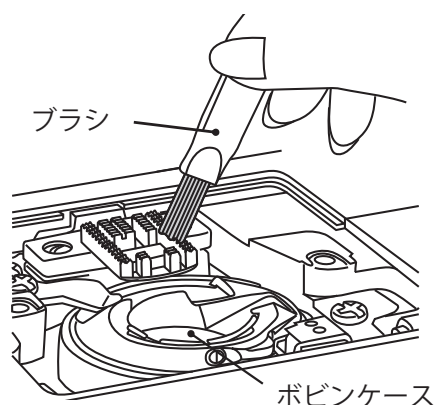
②



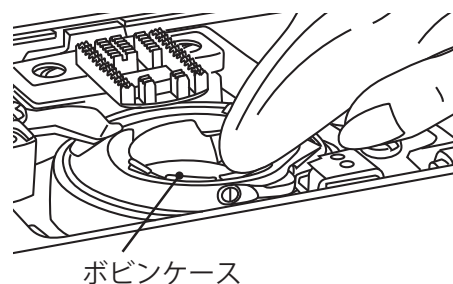
③



④



⑤



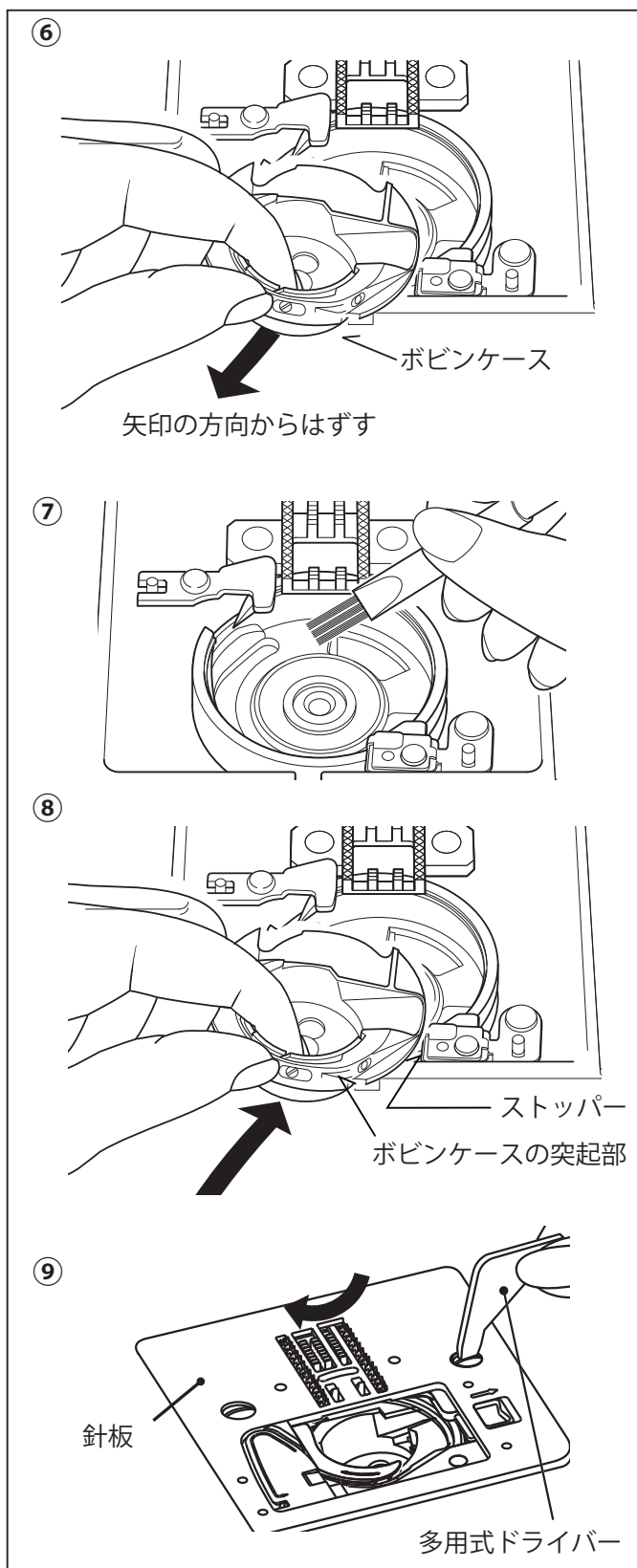
お手入れのしかた

- ⑥ ボビンケースを図のように矢印方向から取りはずします。ボビンケースに付着した糸くずも取り除いておきます。

- ⑦ かま内部、周辺および送り歯の糸くずやほこりをブラシできれいに取り除きます

- ⑧ ボビンケースの突起部とストッパーが接するようにボビンケースを取り付けます。取りはずしと同じ方向からはめ込んでください。

- ⑨ 掃除が完了したら、必ず針板の止めネジを取り付け、かまカバーをつけてください。



保管のしかた

ミシンカバーを本体にかぶせ、直射日光のあたらない湿気の少ない場所で保管してください。ミシンの性能が損なわれる恐れがあるため、長期間未使用の状態は避けてください。

故障かな？と思ったら

こんなときには	原因	対処	参照ページ
ミシンが動かない	下糸巻き軸が右に押されている。	下糸巻き軸を左に戻します。	10
	電源コードが正しくセットされていない。	正しくセットし直します。	7
	電源スイッチが「OFF」の位置にある。	電源スイッチを「ON」の位置にします。	7
	ボビンケースの位置がずれている。	針板をはずしてボビンケースを取り付け直します。	28～29
回転が重い 音が高い	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	28～29
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	15
布を送らない	押えを下ろしていない。	押え上げレバーを下ろして、押えを下げます。	9
	縫いにくい布地の場合		20
	送り歯が下がっている。	送り歯調節レバーを▲▲▲位置にセットし、プーリーを手前に回して送り歯を上げます。	9
	上糸のかけかたが間違っている。 天びんから糸がはずれていませんか？下糸巻き案内に誤って糸をかけていませんか？	正しくかけ直します。	13
	縫い目長さダイヤルが「0」の位置にある。	縫い目長さダイヤルを「0.5～4」に合わせます。	19
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	15
針が折れる、 針が曲がっている	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	15
	無理に布を引っ張った。	布は軽く案内するだけにしてください。	21
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない、差し込む向きが前後逆になっている。	正しく付け直します。	15
	押えが正しく取り付けられていない。	正しく付け直します。	16
	縫いにくい布地の場合		20
	ボビンケースの位置がずれている。	針板をはずしてボビンケースを取り付け直します。	28～29
	上糸のかけかたが間違っている。天びんから糸がはずれていませんか？下糸巻き案内に誤って糸をかけていませんか？	正しくかけ直します。	13
	縫い目の長さが細かすぎる。	縫い目長さダイヤルで、布に合った縫い目の長さを選択します。	19
	針止めネジがゆるんでいる。	付属の多用式ドライバーを使って、ネジをしっかりしめます。	15
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱くします。	18
	下糸が正しく巻かれていない。	正しく巻き直します。	10
	下糸のセットが間違っている。	正しくかけ直します。	12
糸が布と針板の間でだんごになる	上糸調子が適切でない。	上糸調子の確認をします。	18
	上糸のかけかたが間違っている。天びんから糸がはずれていませんか？下糸巻き案内に誤って糸をかけていませんか？	正しくかけ直します。	13
縫い物にしわがよる	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	15
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	15
	薄物に対して縫い目があらい。	縫い目の長さを細かくします。	20
	薄物縫いの場合		20
	上糸のかけかたが間違っている。天びんから糸がはずれていませんか？下糸巻き案内に誤って糸をかけていませんか？	正しくかけ直します。	13
	下糸のセットが間違っている。	正しくかけ直します。	12
	上糸調子が適切でない。	上糸調子の確認をします。	18

故障かな？と思ったら

こんなときには	原因	対処	参照ページ
糸がからまる	上糸のかけかたが間違っている。天びんから糸がはずれていませんか？下糸巻き案内に誤って糸をかけていませんか？	正しくかけ直します。	13
	送り歯が下がっている。	送り歯調節レバーを▲▲▲位置にセットし、プーリーを手前に回して送り歯を上げます。	9
	下糸が正しく巻かれていない。	正しく巻き直します。	10
	上糸調子が適切でない。	上糸調子の確認をします。	18
	押えを下ろしていない。	押え上げレバーを下ろして、押えを下げます。	9
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	15
	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	針板をはずして送り歯とかまの掃除を行います。	28～29
	ボビンケースの位置がずれている。	針板をはずしてボビンケースを取り付け直します。	28～29
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	15
	縫いにくい布地の場合		20
かまに上糸・下糸がからまる	上糸がきちんとかかっている・上糸調子が適切でない。	上糸をかけなおし、上糸調子の確認をします。	13・18
	押えを下ろしていない。	押え上げレバーを下ろして、押えを下げます。	9
	薄物縫いの場合		20
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	15
	糸くずやごみがかまにたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	28～29
上糸がつる	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	18
	上糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	13
	下糸のセットが間違っている。	ボビンが左回りになるように入れ、手前のつの (A) と針板のみぞに沿って糸を通し、糸切りで糸を切ります。	12
下糸が切れる	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	28～29
プーリーが回せない	ボビンケースの位置がずれている。	針板をはずしてボビンケースを取り付け直します。	28～29
	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	針板をはずして送り歯とかまの掃除を行います。	28～29
音が高い、ガタガタと音がする	上糸のかけかたが間違っている。天びんから糸がはずれていませんか？下糸巻き案内に誤って糸をかけていませんか？	正しくかけ直します。	13
	下糸のセットが間違っている。	正しくかけ直します。	12
	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	針板をはずして送り歯とかまの掃除を行います。	28～29
	ボビンケースの位置がずれている。	針板をはずしてボビンケースを取り付け直します。	28～29
押え上げレバーを上げている。		押え上げレバーを下げます。押え上げレバーを上げているときは押えがぐらつきます。	9
糸調子が合わない	下糸のセットが間違っている。	ボビンが左回りになるように入れ、手前のつの (A) と針板のみぞに沿って糸を通し、糸切りで糸を切ります。	12
	金属製のボビンを使用している。	プラスチック製のボビンと取りかえます。	6
	下糸が正しく巻かれていない。	正しく巻き直します。	10
	上糸調子が適切でない。	上糸調子の確認をします。	18
	上糸のかけかたが間違っている。天びんから糸がはずれていませんか？下糸巻き案内に誤って糸をかけていませんか？	正しくかけ直します。	13
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	15
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	15

故障かな？と思ったら

こんなときには	原因	対処	参照ページ
針が当たる	針が曲がっている。	新しい針と取りかえます。	15
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない、差し込む向きが前後逆になっている。	正しく付け直します。	15
	ファスナー押えを取り付けている。	ファスナー押えを使用するときは、中基線の直線模様を選択します。	22
	ボビンケースの位置がずれている。	針板をはずしてボビンケースを取り付け直します。	28～29
自動糸通しができない	プーリーの目印線を最上点にしていない。	プーリーを手前に回してプーリーの目印線を最上点にします。	13
	針が曲がっている。	新しい針と取りかえます。	15
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない、差し込む向きが前後逆になっている。	正しく付け直します。	15
	上糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	13
	9番の針を使用している。	9番の針は自動糸通し器に対応していません。手で糸を針穴に通してください。	14
下糸が引き上がらない	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	15
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない、差し込む向きが前後逆になっている。	正しく付け直します。	15
	上糸のかけかたが間違っている。 天びんから糸がはずれていませんか？下糸巻き案内に誤って糸をかけていませんか？	正しくかけ直します。	13
	下糸のセットが間違っている。	ボビンが左回りになるように入れ、手前のつの(A)と針板のみぞに沿って糸を通し、糸切りで糸を切ります。	12
模様が正しく縫えない	下糸のセットが間違っている。	ボビンが左回りになるように入れ、手前のつの(A)と針板のみぞに沿って糸を通し、糸切りで糸を切ります。	12
	金属製のボビンを使用している。	プラスチック製のボビンと取りかえます。	6
	下糸が正しく巻かれていない。	正しく巻き直します。	10
	上糸調子が適切でない。	上糸調子の確認をします。	18
	上糸のかけかたが間違っている。 天びんから糸がはずれていませんか？下糸巻き案内に誤って糸をかけていませんか？	正しくかけ直します。	13
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	15
	送り歯が下がっている。	送り歯調節レバーを▲▲▲位置にセットし、プーリーを手前に回して送り歯を上げます。	9
	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	針板をはずして送り歯とかまの掃除を行います。	28～29
	ボビンケースの位置がずれている。	針板をはずしてボビンケースを取り付け直します。	28～29
下糸がきれいに巻けない	糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	10

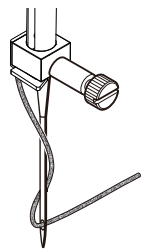
故障かな？と思ったら

こんなときには	原因	対処	参照ページ
縫い目がとぶ	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	15
	よじれの起こりやすい糸を使っている。	下図のように針に糸を巻き付けることをおすすめします。	下図参照
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	15
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない、差し込む向きが逆になっている。	正しく付け直します。	15
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	18
	上糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	13
	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	28～29
	縫いにくい布地の場合		20
	家庭用ミシン針を使用していない。	家庭用ミシン針と取りかえます。	15
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない、差し込む向きが前後逆になっている。	正しく付け直します。	15
上糸が切れる	上糸のかけかたが間違っている。	正しくかけ直します。	13
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	18
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	15
	針が曲がっている、先がつぶれている。	新しい針と取りかえます。	15
	よじれの起こりやすい糸を使っている。	下図のように針に糸を巻き付けることをおすすめします。	下図参照
	針が針棒のいちばん奥まで入っていない、差し込む向きが前後逆になっている。	正しく付け直します。	15
	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	送り歯とかまの掃除を行います。	28～29
このミシンはLEDランプを搭載しています。万一LEDランプが切れた場合は、お客様自身での交換はせず、お買い上げの販売店か「お客様相談窓口」までご相談ください。			

市販の糸にはよじれの起こりやすい糸があり、目とび／糸切れなどが発生することがあります。

このような場合、図のように針に糸を巻き付けることをおすすめします。

ご注意： 図とは反対に巻き付けないようにしてください。
糸のよじれがかえって増すこととなります。



仕様

定格消費電力	70 W
定格電圧	AC 100 V 50 / 60 Hz
本体質量	約 5.2 kg (本体のみ)
本体寸法	約 400 (W) × 152 (D) × 265 (H) mm
付属品	ブラシ付きシームリッパー、ボビン (3 個)、ファスナー押え、ボタン付け押え、ボタンホール押え、シームガイド、糸立て棒、ミシン針 (14 番 × 3 本)、多用式ドライバー、補助糸立て棒、糸コマクッション、糸コマ押え (大小)

※ 本機の仕様および外観については、改良のため予告なく変更することがあります。

別売部品について

別売部品を依頼される場合は、小泉成器株式会社「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

名 称	型 番
フットコントローラー	KJM-FC003

愛情点検

★ 長年ご使用の電子ミシンの点検を！

点検やオーバーホールをご依頼される場合は、保証・無料修理規定とは異なるため、別途料金を頂戴致します。



このような
症状は
ありませんか？

- 電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
- 異常なおいがしたり煙が出る。
- ミシンにさわると電気を感じる。
- その他の異常・故障がある。

ご使用
中 止

このような症状のときは、
故障や事故防止のため、
コンセントから電源プラグを抜いて必ず販売店にご相談ください。

アフターサービスについて

1. 保証書

- この取扱説明書には保証書が付いています。
保証書はお買い上げの販売店で「販売店名・お買い上げ日」などの記入をご確認の上、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。
- 一般家庭用以外に使用される場合は除きます。

2. 修理を依頼されるときは

- 保証期間中は
商品に保証書を添えてお買い上げの販売店にご持参ください。保証書の記載内容により無料修理いたします。
- 保証期間が過ぎているときは
お買い上げの販売店にご相談ください。修理により使用できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

3. 補修用性能部品の保有期間

- 補修用性能部品は製造打ち切り後8年保有しています。
補修用性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

4. アフターサービスについてご不明の場合

- アフターサービスについてご不明の場合には、お買い上げの販売店か、小泉成器株式会社「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

お客様の個人情報のお取り扱いについて

お受けしましたお客様の個人情報は当社個人情報保護方針に基づき適切に管理いたします。また、お客様の同意がない限り、業務委託をする場合および法令に基づき必要と判断される場合を除き、第三者への開示は行いません。

< 利用目的 >

お受けしました個人情報は、商品・サービスに関わるご相談・お問い合わせおよび修理対応のみを目的として使用させていただきます。

なお、この目的のために小泉成器株式会社および関係会社で上記個人情報を利用することがあります。

< 業務委託の場合 >

上記目的の範囲内で対応業務を委託する場合、委託先に対しては当社と同等の個人情報保護を実施させるとともに適切な管理・監督をいたします。

保証・無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障した場合、「無料修理」致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理をお受けになる場合には、商品と本書をご持参ご提示の上、お買い上げの販売店にご依頼ください。
3. ご転居、ご贈答品等で本保証書に記入してあるお買い上げの販売店に修理がご依頼できない場合には、取扱説明書の小泉成器株式会社「お客様相談窓口」へご相談ください。
4. 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - (イ) 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷。
 - (ロ) お買い上げ後の落下等による故障および損傷。
 - (ハ) 火災、地震、落雷、水害、その他の天災地変、異常電圧による故障および損傷。
 - (ニ) 一般家庭以外（例えば業務用の長時間使用、車輛、船舶への搭載）に使用された場合の故障および損傷。
 - (ホ) 本書のご提示がない場合。
 - (ヘ) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えた場合。
 - (ト) 譲渡、転売、リサイクル店（中古品）、中古販売店、オークション等により入手された場合。
5. 保証期間内でも商品を修理窓口へ送付された場合の送料はお客様の負担となります。
6. 本書は日本国内においてのみ有効です。日本国外からの修理依頼や補修用部品・消耗部品の発送依頼には対応しておりません。
Effective only in Japan. We do not offer repair service or dispatch maintenance parts or consumables internationally.
7. 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

- ※ この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または取扱説明書の小泉成器株式会社「お客様相談窓口」にお問い合わせください。
- ※ 保証期間経過後の修理について詳しくは取扱説明書の「アフターサービスについて」をご覧ください。

電子ミシン

保証書 持込修理

本書は、本書記載内容（裏面記載）で無料修理を行うことをお約束するものです。
お買い上げの日から下記期間中故障が発生した場合は、本書をご提示の上、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

型番	KJM-2001		
お買い上げ年月日	年 月 日		
無料修理 保証期間	対象部分	期間（お買い上げ日より）	
	本体	1 年	
お客様	お名前	様	
	ご住所	〒	TEL
販売店	店名・住所・電話		

★販売店の皆様へのお願い 必ず全項目をご記入、ご捺印の上、お客様にお渡しください。

小泉成器株式会社 本社 〒541-0051 大阪市中央区備後町3丁目3番7号 TEL.06(6268)1423

お客様相談窓口

製品のお問い合わせ、修理に関するご相談、部品の購入に関するご相談は



ナビダイヤル（全国共通番号） **0570（07）5555**

※ナビダイヤルがご利用いただけない場合 **TEL.03（3570）6730**

受付時間：平日 9：00 ～ 17：00（土・日・祝日・夏期休暇・年末年始を除く）

小泉成器株式会社

〒541-0051 大阪市中央区備後町3丁目3番7号

2024 年 10 月現在（所在地、電話番号などについては変更がある場合がありますので、その節はご容赦願います。）